

宮古市埋蔵文化財調査報告書 8
Archaeological Researches in Miyako

宮古市遺跡分布調査報告書 4

Distribution of Archaeological Research Sites
in Miyako, Iwate Prefecture

1986



松山館 (西より)

Photo.1

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.

序 文

私達の周囲には、郷土の歴史や文化を知る上で欠くことのできない多くの文化財があります。

教育委員会では、これらの様々な文化財を調査研究し、郷土宮古をつくりあげてきた人々の歴史や文化を広く市民の皆様にお知らせし、正しく後世に伝え残していくことが豊かな郷土を作る第一歩と考えております。

しかしながら最近、生活様式の変化や各種の開発事業などにより古来から伝えられてきた様々な文化財が消え去ろうとしています。特に埋蔵文化財についてはかつてない危機にさらされております。

このような状況の中で教育委員会では、昭和57年度から市内遺跡の分布調査事業を始め、遺跡保存の基礎資料を作成してまいりました。本書は第4年次目の報告書で、根市、松山、大谷地、根井沢、堀内、小堀内地区の調査結果等を公表するものであります。

本書が埋蔵文化財保存の基礎資料として、また地域史研究の資料として活用されんことを望み序文といたします。

昭和61年3月

宮古市教育委員会

教育長 小野寺

聰

例 言

1. 本書は昭和60年度の文化財保護事業として国庫及び県費の補助を受けて宮古市教育委員会が実施した、遺跡詳細分布調査の報告書である。

2. 第Ⅰ期市内遺跡分布調査事業の終了にあたり、埋蔵文化財包蔵地域一覧及び分布図を別冊としてまとめた。

3. 報告にあたり下記の各位から資料提供・御助言を賜りました。記して深甚なる謝意を表します。

齊藤英樹 田村忠博
小堀内八藏 吉田由太郎

4. 調査は宮古市教育委員会が主体となり、宮古市文化財保護審議会委員齊藤英樹・宮古市教育委員会事務局社会教育課主事武田将男が担当した。

5. 本書の編集は宮古市教育委員会が行い、図版作成・執筆・写真撮影は社会教育課主事高橋憲太郎・武田が行った。図版作成にあたり平山千恵子・佐々木朋子氏の協力があった。

6. 調査体制

宮古市教育委員会事務局社会教育課 課長 藤田利美
〃 係長 佐々木孝夫

7. 挿図について

- ・遺物の実測図、土器拓影についてはスケールを付して縮尺を示した。
- ・遺跡分布図については、遺跡ごとにコード番号を付し、縮尺は各々図中に示した。

8. 遺物表示について

- ・胎土に繊維を含む土器及び、還元焰焼成の陶質土器を各々次のように表わした。



繊維を含む土器



還元焰焼成の陶質土器

目 次

序 文 宮古市教育委員会
教育長 小野 寺 聰

例 言

目 次

I 遺跡分布調査と市内の遺跡1 page

1. 遺跡分布調査について
2. 宮古市の遺跡について
3. 分布調査対象地域
4. 文献

II 分布調査の結果

1. 根市・松山地区 (Neichi,Matsuyama) 4
2. 大谷地地区 (Ôyachi)10
3. 根井沢地区 (Neisawa)14
4. 堀内・小堀内地区 (Horinai,Kôborinai)20

III 資料編30

資料1

}

資料12

写真目次

Photo.		内表紙	page
1	松山館空中写真	内表紙	
2	松山館出土藏手刀	4	4
3	松山地区航空写真	5	5
4	閉伊川・長沢川流域の城館遺跡	6	6
5	松山地区と周辺の城館遺跡	6	6
6	根市館空中写真	7	7
7	松山館空中写真	7	7
8	根市館航空写真	8	8
9	松山館航空写真	9	9
10	大谷地地区空中写真	11	11
11	大谷地地区航空写真	11	11
12	大谷地 II～V 遺跡空中写真	12	12
13	下大谷地 VI 遺跡空中写真	12	12
14	大谷地 I 遺跡	13	13
15	下大谷地 VI 遺跡	13	13
16	根井沢地区空中写真	15	15
17	根井沢地区航空写真	15	15
18	根井沢地区空中写真	16	16
19	〃	16	16
20	根井沢 I 遺跡	17	17
21	根井沢 II 遺跡	17	17
22	根井沢日影 II 遺跡	18	18
23	根井沢 I 遺跡 A 地点出土のフイゴ羽口と鉄滓	18	18
24	根井沢・大谷地地区遺物	19	19
25	堀内・小堀内地区と宮古湾	21	21
26	堀内・小堀内地区航空写真	21	21
27	堀内・小堀内地区空中写真	22	22
28	小堀内 I 遺跡	22	22
29	小堀内 I 遺跡出土遺物	26	26
30	〃	26	26
31	〃	27	27
32	〃	27	27
33(1～8)	〃	29	29
34	資料 6	35	35
35	〃 7	35	35
36	〃 8	36	36
37	〃 9	36	36
38	〃 10	37	37
39(1～3)	〃 11	37	37
40(1～3)	〃 12	38	38

插图目次

Fig.	1	遺跡分布調査対象地区	3	page
	2	松山地区遺跡分布図	5	
	3	根市館要図	8	
	4	松山館要図	9	
	5	大谷地地区遺跡分布図	10	
	6	根井沢地区 "	14	
	7	根井沢・大谷地地区遺物	19	
	8	堀内・小堀内地区遺跡分布図	20	
	9	小堀内 I 遺跡出土遺物	23	
	10	"	24	
	11	"	25	
	12	"	28	
	13	資料 1	30	
	14	" 2	31	
	15	" 3	32	
	16	" 4	33	
	17	" 5	34	

I 遺跡分布調査と市内の遺跡

1. 遺跡分布調査について

近年、近郊地域における宅地や、施設用地の造成など広範囲に及ぶ開発事業が増加するなかで、遺跡の保護や活用については多様かつ長期的な展望をもって対応することが必要となってきた。地域の歴史的環境としての文化遺産である遺跡を、如何にしてより良いかたちで後世に伝え残していくか、その意味や価値を如何にして多くの人々に正しいかたちで知らしめていくかについて、具体的な施策を効果的に行うことが急がれている。

遺跡分布調査の目的は、遺跡の所在やその概要を把握し保存のための基礎資料を整備すること、またこれを周知して保存の促進を図ることであるが、これはまた本来的な遺跡調査、つまりある明確な学術的目的性をもった計画的な調査を実施する上でも、欠かすことのできないデータとなるのである。

遺跡保存のひとつの具体的な施策として、また地域史解明の一分野である遺跡の考古学的調査の第一段階として、昭和57年度より市内遺跡分布調査事業を始め、4年次目の本年度で第Ⅰ期の事業を終了するに至った。この調査で対象とした地域は市街・近郊の23地区で、面積的には市内全域(338.38km²)のごく一部ではあるが、当面、開発事業が予想される地域を選定した。対象とした地域内で確認された遺跡数は226ヶ所で、現在知られている市内遺跡のほぼ53%にあたる。

最終年度にあたり、本年度分布調査報告書の付編として、『宮古市遺跡分布図—昭和60年度版』をまとめた。これは4年間の分布調査の結果と、現在まで知られている遺跡分布に関するデータを編集したもので、市内全域の遺跡分布図、遺跡一覧表及び、発掘調査の行われた遺跡の紹介から成り、現時点での遺跡分布の集成データとして提示するものである。

2. 宮古市の遺跡について

各地区に所在する遺跡はそれぞれの立地や、営まれた時期により地域史解明の欠くことのできないデータを包含していると考えられるが、ここでは第Ⅰ期遺跡分布調査で踏査した遺跡のなかでも特に注目されるものなどについて紹介する。

崎山遺跡群は市街地の北、崎山・崎嶽ヶ崎地区に所在する遺跡群で、縄文時代の各期に亘る遺跡が見られ、特に自然遺物の堆積層を伴う崎山貝塚や、かつて晩期の墳墓が検出されている大付遺跡などが含まれる。また嶽ヶ崎地区の館山貝塚は明治時代から研究者に注目されている遺跡で多数の遺物や動物遺存体が出土しており積極的な保存策が望まれる。磯鷄地区の丘陵上に所在する磯鷄遺跡群は上村貝塚、磯鷄蝦夷森貝塚などの重要遺跡が含まれ、立地全体の保存が望まれる。

奈良、平安時代の遺物が見られる遺跡は現在のところ90ヶ所ほど知られているが、最近の調査で丘陵末端の尾根上に古代の集落が見られる例が増えており、今後もこのような立地に所在が確認されることが予想される。

遺跡保存の対応

分布調査の目的

第Ⅰ期遺跡分布調査

縄文時代

古代

中 世 30ヶ所を城す城館遺跡が知られているが、未踏査地区も多く今後も新たに発見される可能性がある。千徳城遺跡群は、古代から中世の遺跡を含むもので地域保存が望まれる。

3. 分布調査対象地域

分布調査は、宅地造成等の開発事業が予想される市街、近郊地域及び緊急に遺跡群の実体を把握する必要性のある地域を選定して行ってきた。本年度は5地域を対象として調査を行い、42遺跡を確認している。松山地区の^{ひら}隠里遺跡群、根井沢地区の鉄に関連する遺構、小堀内地区の遺物等、注目されるものがあつた。下表に57年度から本年度までの対象地域等を示す。

表1

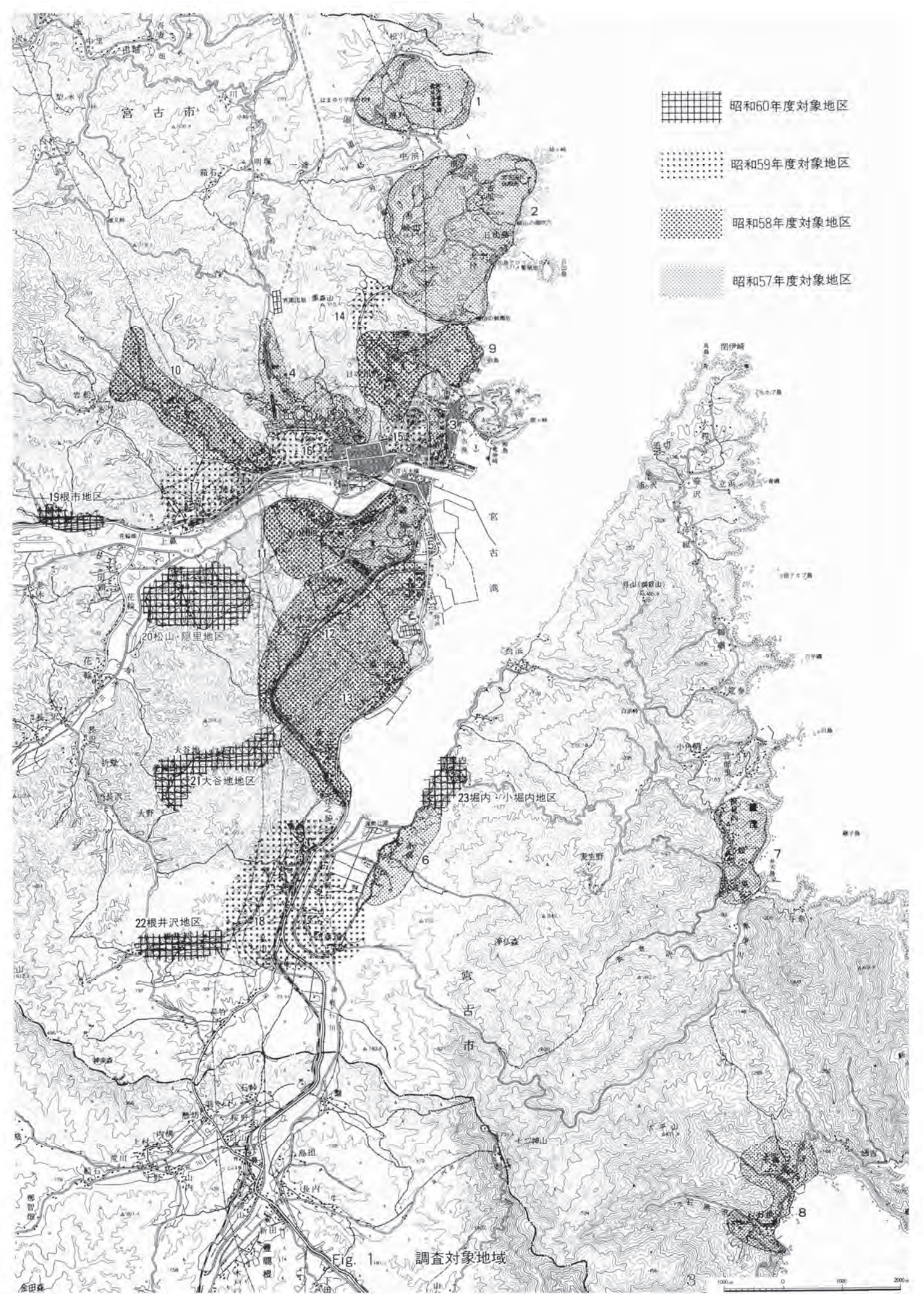
分布調査
対象地域

Fig 1	分布調査対象地区名	遺跡数	備 考	Fig 1	分布調査対象地区名	遺跡数	備 考
昭 和 57 年 度	1 女遊戸地区			昭 14 早稲枋地区	4		
	2 崎山地区	27	崎山遺跡群	和 15 本町・愛宕地区	3	黒田館	
	3 鎌ヶ崎地区	7	館山貝塚	59 16 長根・泉町・鴨崎地区	5		
	4 小沢・山口地区	17	山口館	年 17 千徳地区	19	千徳城遺跡群	
	5 藤原・磯鷄地区	12	磯鷄遺跡群	度 18 津軽石地区	11	城館遺跡～4	
	6 赤前地区	6	赤前 "	昭 19 根市地区	1	根市館	
	7 重茂館地区	4	重茂館 "		和 20 松山地区	10	隠里遺跡群
	8 千鶴・石浜地区	9		60 21 大谷地地区	11		
昭 和 58 年 度	9 佐原・日の出町地区	8		年 22 根井沢地区	13		
	10 近内地区	15	城館遺跡～2	度 23 堀内・小堀内地区	7		
	11 小山田地区	6	小山田館				
	12 八木沢地区	18	城館遺跡～3				
	13 高浜・金浜地区	13	金浜館				

4. 文 献

宮古市の遺跡に関する報告書・論文・資料紹介は、下記のものがある。

- 1 1911 『Prehistoric Fishing in Japan』 岸上鎌吉 東京帝国大学農科大学紀要第二卷
- 2 1911 『先史遺物帖』 中島吉兵衛 中嶋隆氏所蔵
- 3 1924 『東海岸の史蹟調査』 史蹟調査員 小田島祿郎 岩手日報 大正13年11月
- 4 1954 『宮古市附近縄文早期文化に就いて』 中嶋 隆 岩手史学研究15号
- 5 1960 『岩手県史』 岩手県
- 6 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 小田野哲憲・熊谷常正 宮古市教育委員会
- 7 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』 加藤 孝 "
- 8 1982 『岩手の土器』 岩手県立博物館
- 9 1983 『宮古地方の中世史 古城物語』 田村忠博
- 10 1984 『宮古市赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』 宮古市教育委員会
- 11 1984 『岸上鎌吉 日本先史時代の漁撈』 小田野哲憲 岩手県立博物館研究報告第2号
- 12 1985 『岩手の遺跡』 財団法人岩手県埋蔵文化財センター
- 13 1985 『宮古市金浜館発掘調査報告書』 宮古市教育委員会
- 14 1985 『宮古市近内出土の土偶』 高橋憲太郎 宮古地方史研究第二号・宮古地方史研究会編
- 15 1983～85 『宮古市遺跡分布調査報告書1～3』 宮古市教育委員会



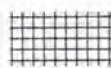



-  昭和60年度対象地区
-  昭和59年度対象地区
-  昭和58年度対象地区
-  昭和57年度対象地区

Fig. 1 調査対象地域

II 分布調査の結果

1 根市・松山地区

根市地区 閉伊川の北岸には長根・泉町・鴨崎遺跡群、千徳城遺跡群などの丘陵上に立地する遺跡群が見られるが、これより上流域の北岸では小起伏山地が河川にせまっており、丘陵は見られず、同様な遺跡群は現在のところ確認されていない。

根市地区は閉伊川河口から約6km、北の背後に山地をひかえ河道域との間に標高11~14mの小平野が見られ、ほとんどが畑地として利用されている。この畑地部分では、遺物が濃密に分布する地点は確認されなかった。

根市館 背後の山地から南へ細長くはり出した尾根と先端の小丘陵に構築された館跡で、基部を空堀りて区切り、尾根上に郭を造り出している。先端の小丘陵には三段ほどの腰郭が見られ、丘頂部には鈴ヶ森神社がある。ここからは対岸の田鎖館、老木館、根城が一望でき、足下に閉伊川、を見わたすことができる。(7p.photo.6)

松山地区 閉伊川とこれに南西から流れ込む長沢川との合流点付近は氾濫平野が広く発達しており、水田、畑地として利用されている。松山地区はこの合流点の南東にあたる部分で、前面に閉伊川とこれに伴う氾濫平野、背後に山地をひかえている。この地区では北に張り出した丘陵上に松山館、また山地末端の尾根上や谷間に遺跡が見られた。松山地区の南の山中に盆地状の緩斜面部分があり(隠里地区)、ここでは奈良・平安時代の遺跡が濃密に分布している。

松山館 大地田沢遺跡は、尾根上に立地し「エゾヶ森」と呼ばれる竪穴住居と考えられる窪地があり下の沢には土師器が見られる。下谷地遺跡では鉄滓、土師器が散布している。松山館は同地区の西を限る丘陵上に構築された館跡で、標高76mの主郭を中心に五支に伸びた尾根上に郭や物見などを造り出している。館主は白根氏、構築は14世紀後半と考えられている。また下に示す蕨手刀が出土している。これは江戸時代末期に主郭部分から発見されたものと言われ、全長45.5cm、刃長32.9cm(先端一部欠損)、鐙長6.3cmを計る。また主郭斜面からは明治時代に須恵器の瓶の完形品が出土しており、城館構築以前にもこの丘陵上に何らかの遺構を残した人々がいることが考えられる。(7photo.7)

隠里遺跡群 隠里地区には7ヶ所の遺跡があり、いずれも縄文時代の遺物、土師器、須恵器およびフイゴ羽口、鉄滓などが見られる。特に鉄に関する資料が多く、注目される。

参考文献 1979 田村忠博 『松山館出土の蕨手刀に関する調査報告書』
1983 " 『宮古地方の中世史 古城物語』

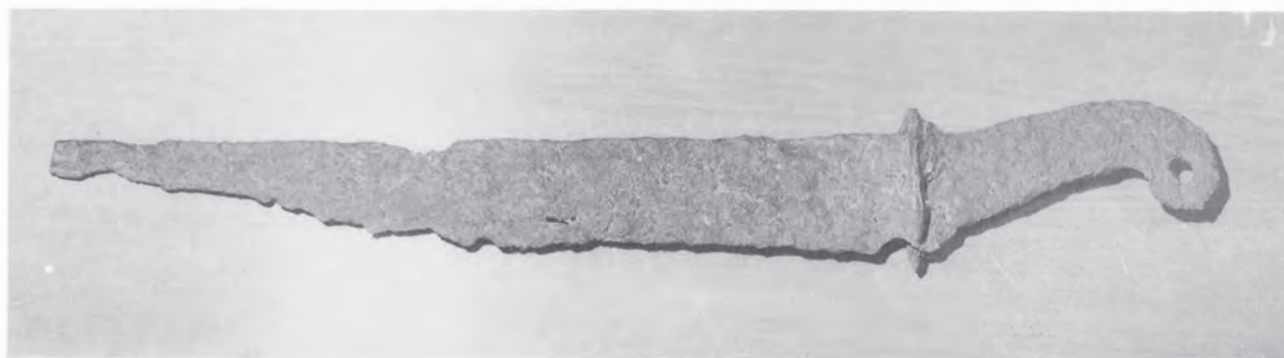
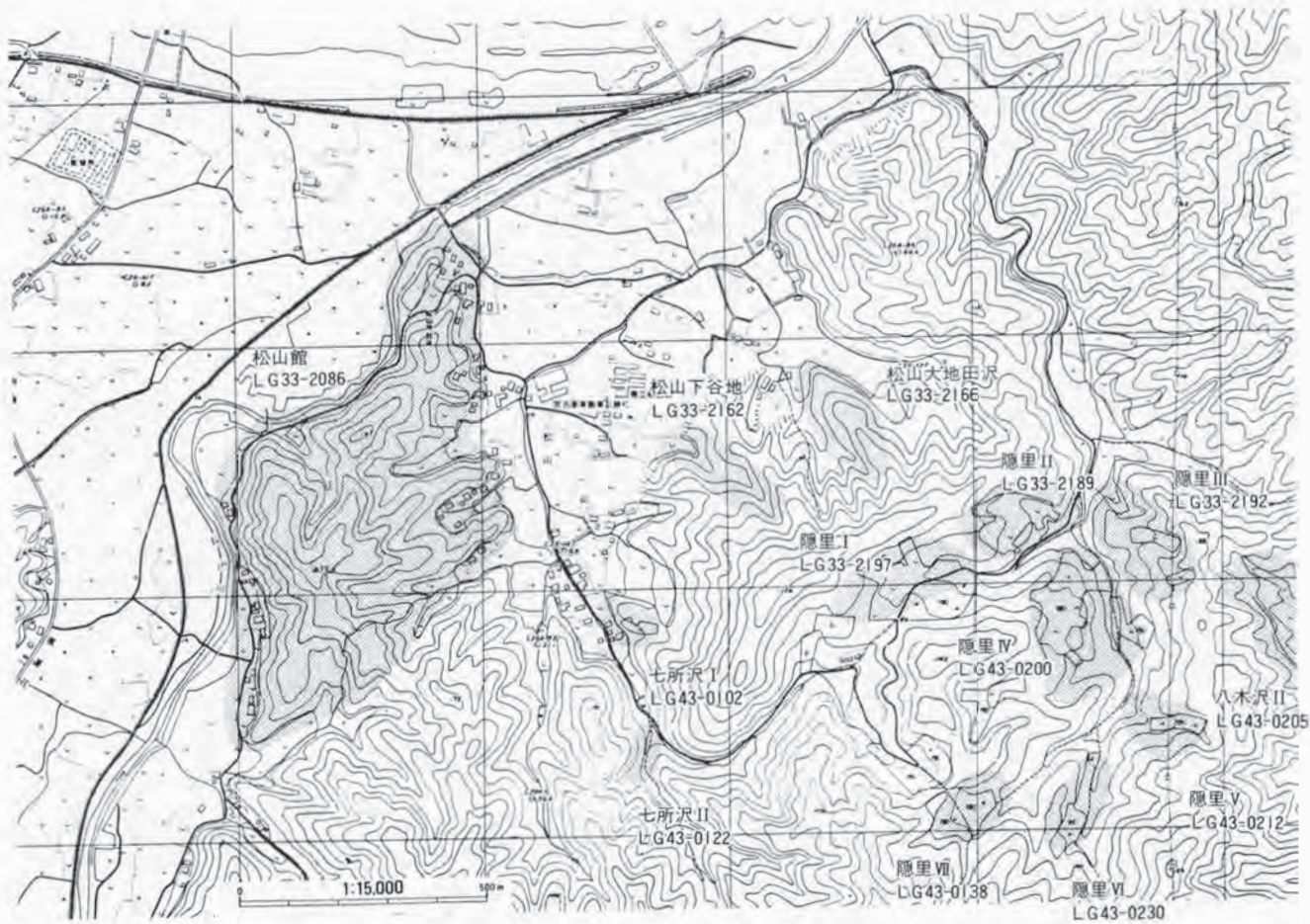


Photo. 2

松山館山土の蕨手刀



松山地区遺跡分布図

Fig.2



松山地区

Photo.3



Photo.4

閉伊川・長沢川流域の城館遺跡（東より）



Photo.5

松山地区と周辺の城館遺跡



根市館（南より）

Photo. 6



松山館（西より）

Photo. 7

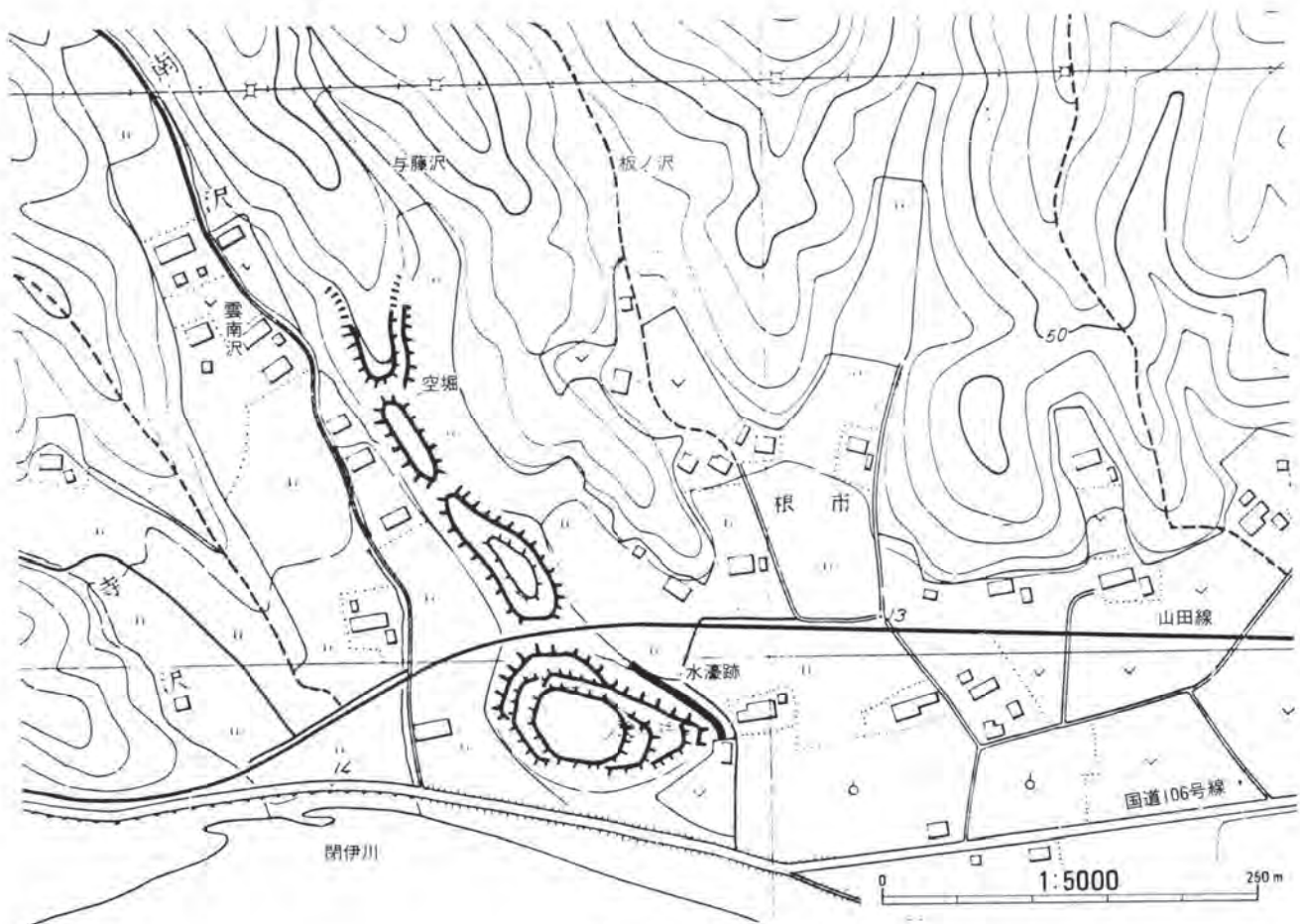


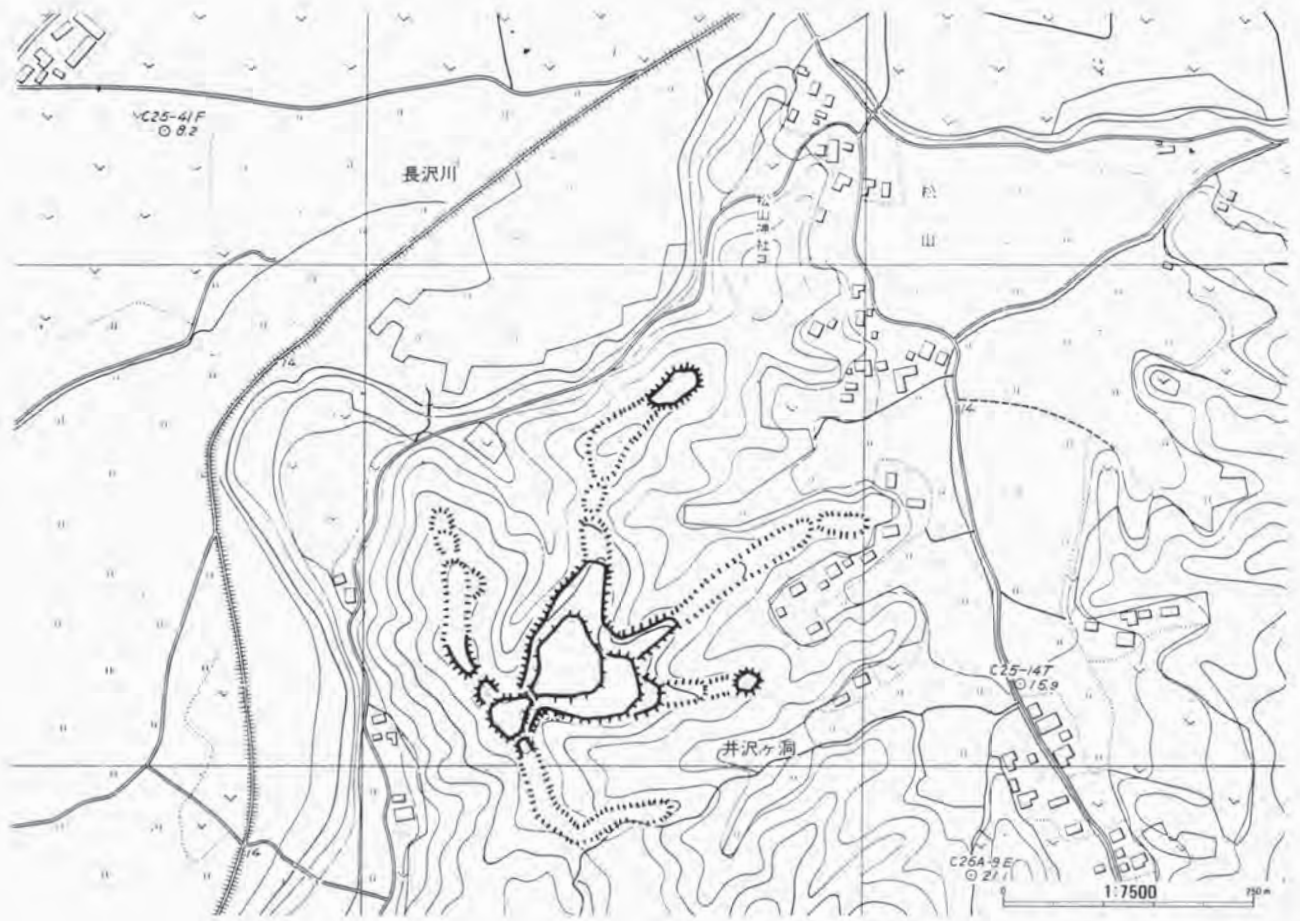
Fig. 3

根市館 (LG32-1258)



Photo. 8

根市館



松山館 (LG33-2086)

Fig. 4



松山館

Photo. 9

2. 大谷地地区

立地 閉伊川の南は、北東方向に流れる長沢川及び津軽石川によって山地が開析され、これらの河川とその支流に伴う谷底平野、低地が樹状に入り込んでいる。これらの河川にはさまれた小起伏山地のはぼ中央、八木沢川に至る小河川が形成した幅 100m 前後の細長い谷底平野が大谷地地区である。南北は山地がせまっており、遺跡は山地から小河川に至る緩斜面上に立地している。上流の大谷地地区で5ヶ所、下大谷地地区で6ヶ所の遺跡が知られており、縄文時代の遺物や鉄滓の散布が認められる。

表2 大谷地地区遺跡一覧

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地
LG43-2206	下大谷地Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	八木沢第9地割大谷地
-2204	下大谷地Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	八木沢第9地割大谷地
-2222	下大谷地Ⅲ	縄文時代土器・鉄滓	八木沢第9地割大谷地
-2223	下大谷地Ⅳ	縄文時代土器	八木沢第9地割大谷地
-2264	下大谷地Ⅴ	鉄滓	八木沢第9地割大谷地
-2147	下大谷地Ⅵ	縄文時代前期・中期・後期・鉄滓	八木沢第9地割大谷地
-2143	大谷地Ⅰ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地
-2170	大谷地Ⅱ	縄文時代早期・前期・中期・鉄滓	花輪第18地割大谷地
-2068	大谷地Ⅲ	鉄滓・羽口	花輪第18地割大谷地
-2076	大谷地Ⅳ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地
LG53-0027	大谷地Ⅴ	縄文時代土器	花輪第18地割大谷地、長沢26横街道

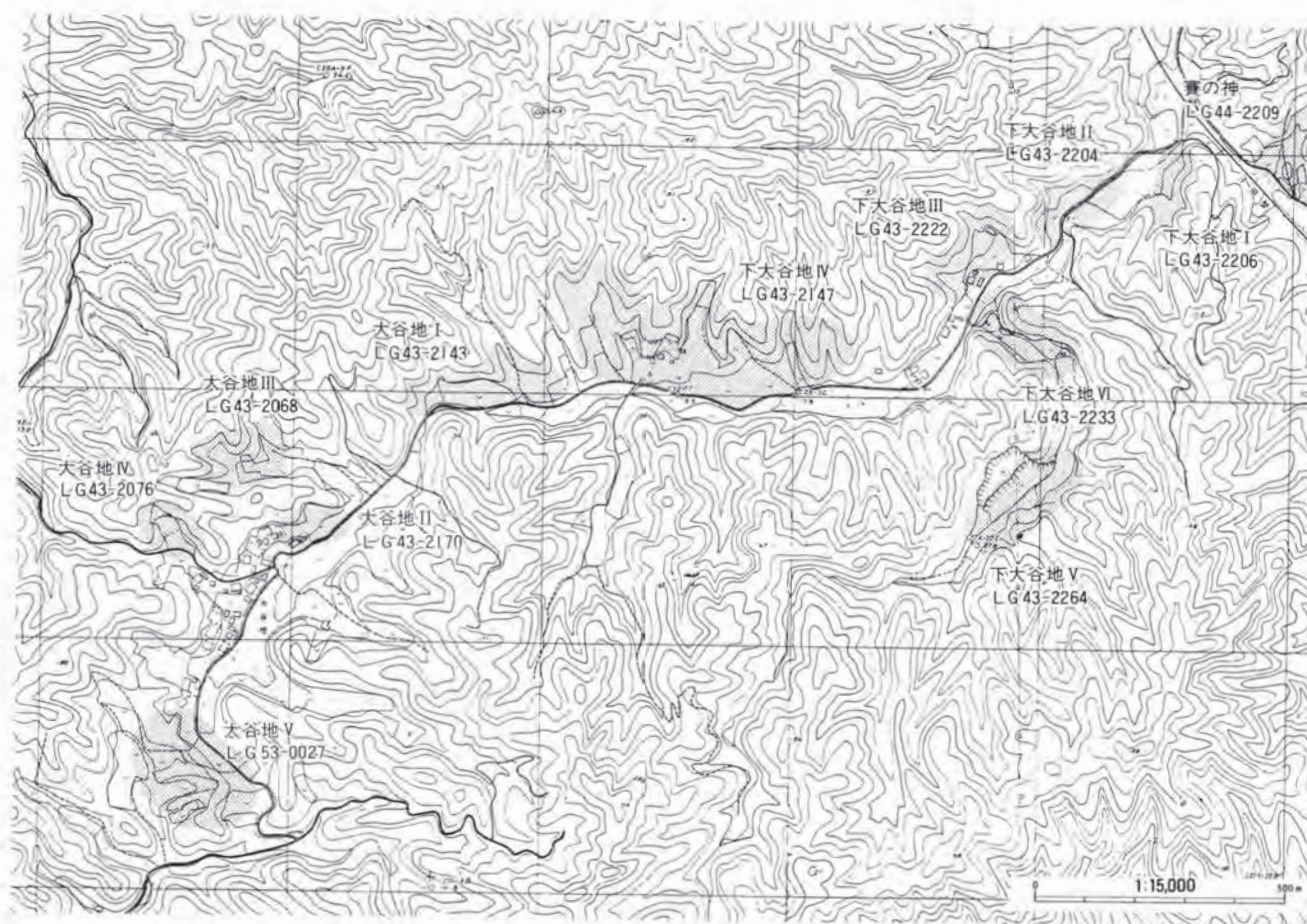
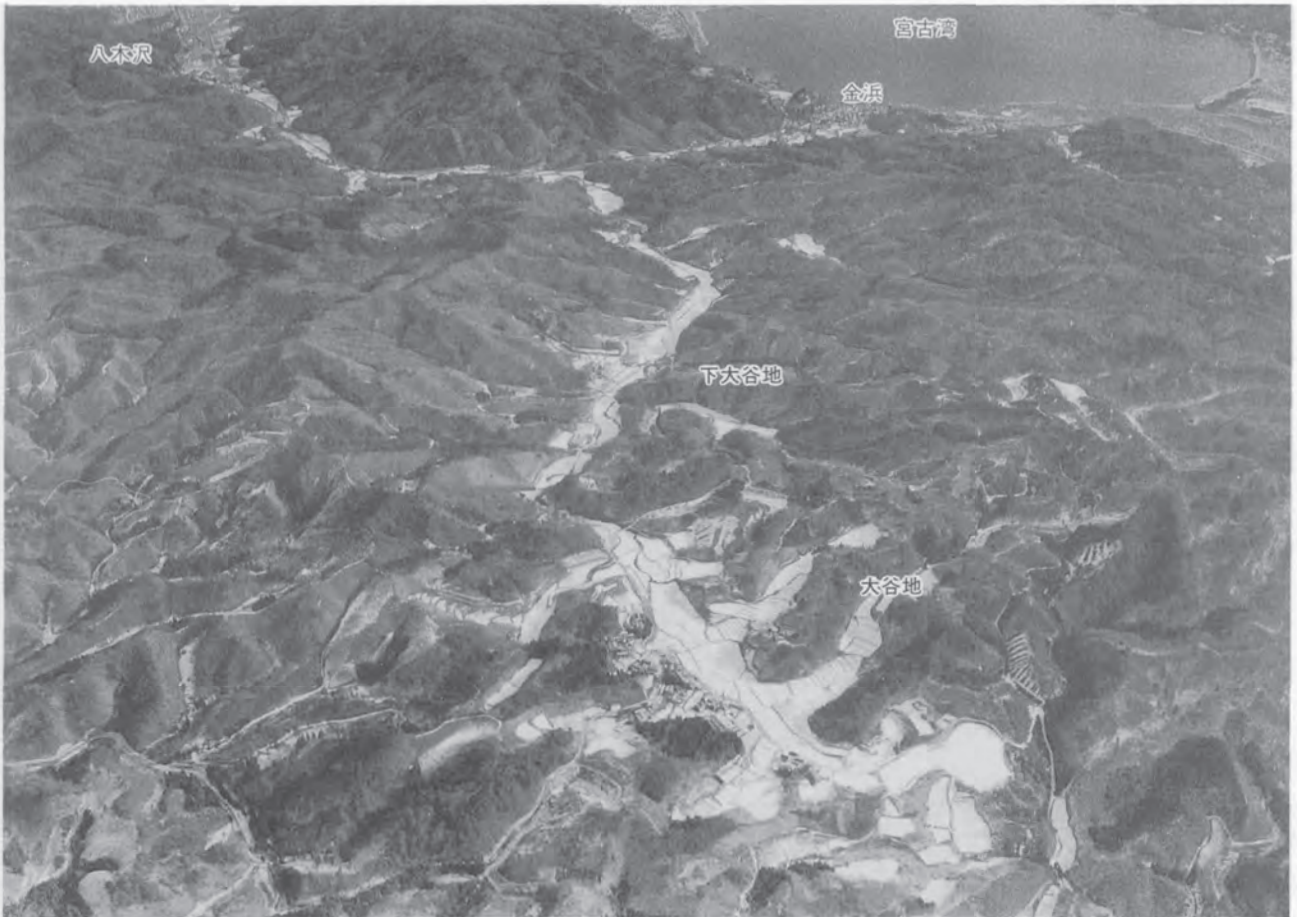


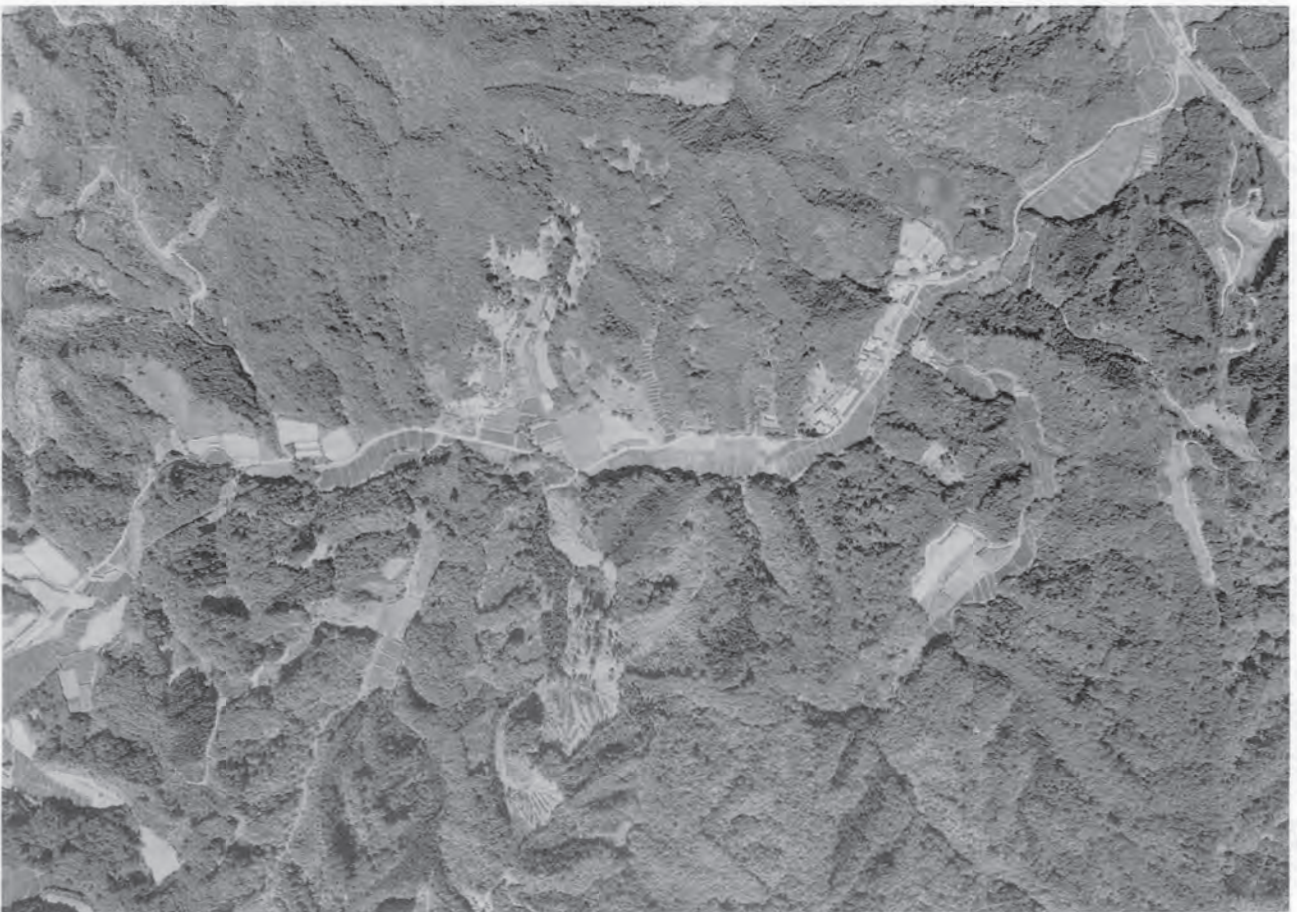
Fig. 5

大谷地地区遺跡分布図



大谷地地区 (南西より)

Photo.10



大谷地地区

Photo.11



Photo.12

大谷地Ⅱ～Ⅴ遺跡（南東より）



Photo.13

下大谷地Ⅵ遺跡



大谷地 I 遺跡(LG43-2143)北西より

Photo.14



下大谷地 IV 遺跡(LG43-2147)東より

Photo.15

3 根井沢地区

立地 津軽石川はその流域・河口に広い平野・低地を形成しており、この支流の小河川は小起伏山地を開析し樹状の谷底平野を入り込ませている。根井沢地区は津軽石川に西から流れ込む最下流の支流で、大笹森(612m)に源を発して東北東に流れ上根井沢、根井沢、沼里館の南を通って合流点に至る。合流点から約3kmにわたり巾100~150mの谷底平野が形成されている。

上根井沢地区では、4ヶ所の遺跡が知られており、いずれも縄文時代の遺物が散布している。根井沢地区では、縄文時代の遺物と、鉄滓やファイゴ羽口が出土する鉄に関連する遺跡が確認されている。下流の根井沢穴田地区では5ヶ所の遺跡が密集して見られ、縄文時代の遺物及び土師器が散布している。

根井沢 I 遺跡 根井沢地区のほぼ中央に位置し、背後の山地から河川に至る南向きの斜面に立地し縄文時代の遺物と鉄滓、羽口などが見られる。**Photo.17**のA地点からは、ファイゴ羽口10本と鉄滓が出土している。これらは土砂採取に伴い出土したものでほとんどが破損しているが、直径9cm、孔径3cm前後、先端から末端まであるもので長さ約26cmほどである。先端部には鉄滓が付着しており、なかには餅状の鉄滓が先端から孔中に流入しているものも見られる。伴出した鉄滓は流動性のもので、カッティングには焼土を伴う落ち込みが3ヶ所あり、明らかに鉄に関連する遺構と考えられる。また同地点からは40×30cm、厚さ10cm、重さ10kgほどの不純物を含む鉄塊が出土しており、周辺地区からも鉄滓が出土していることから、これらの遺構群の存在が考えられる。

根井沢 II 遺跡 根井沢 I 遺跡の対岸南西地区にあり、**Fig. 7** に示す縄文時代の遺物と鉄滓が見られる。地元では「金糞平」と呼ばれており鉄に関する遺構の存在が考えられる。

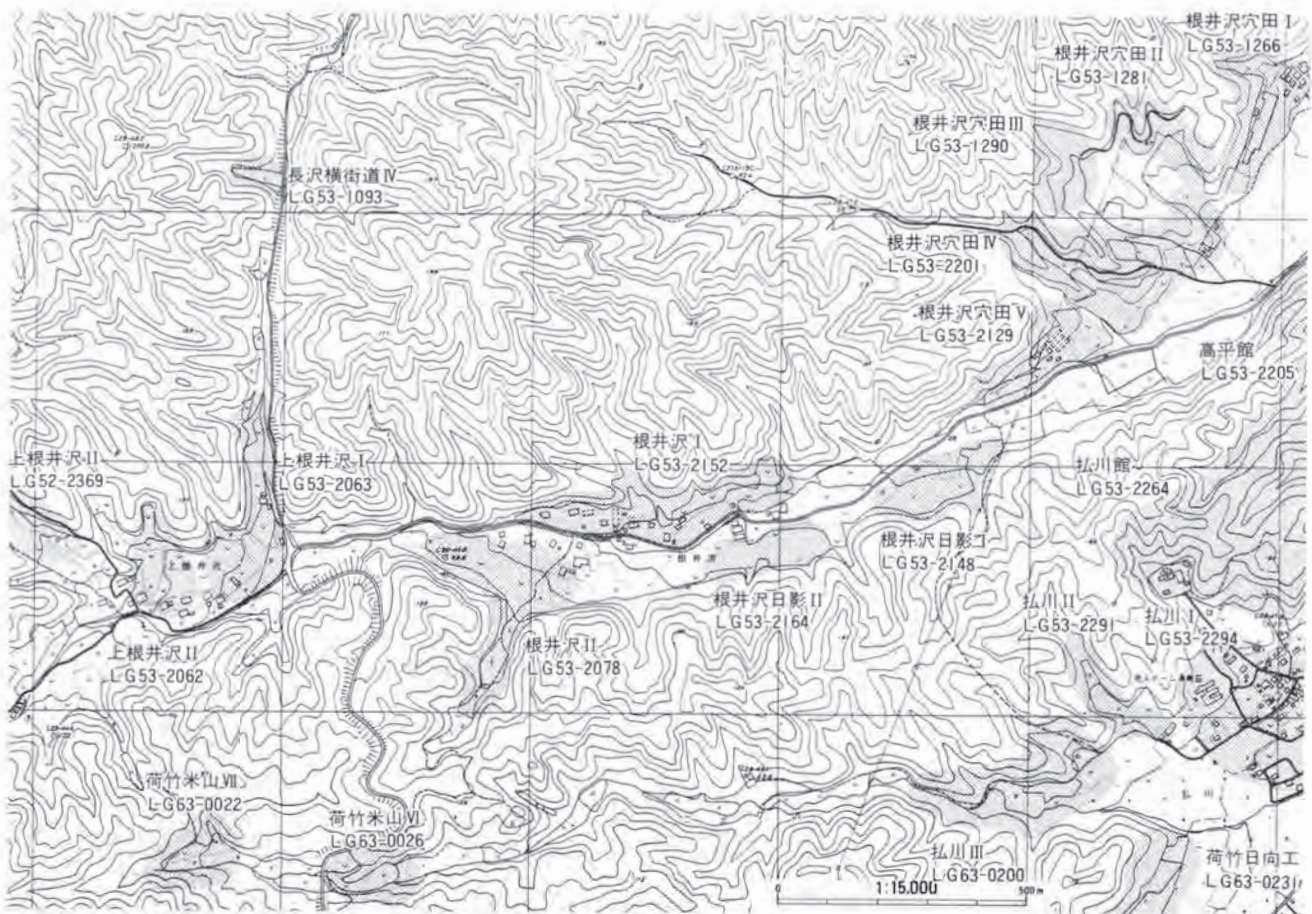


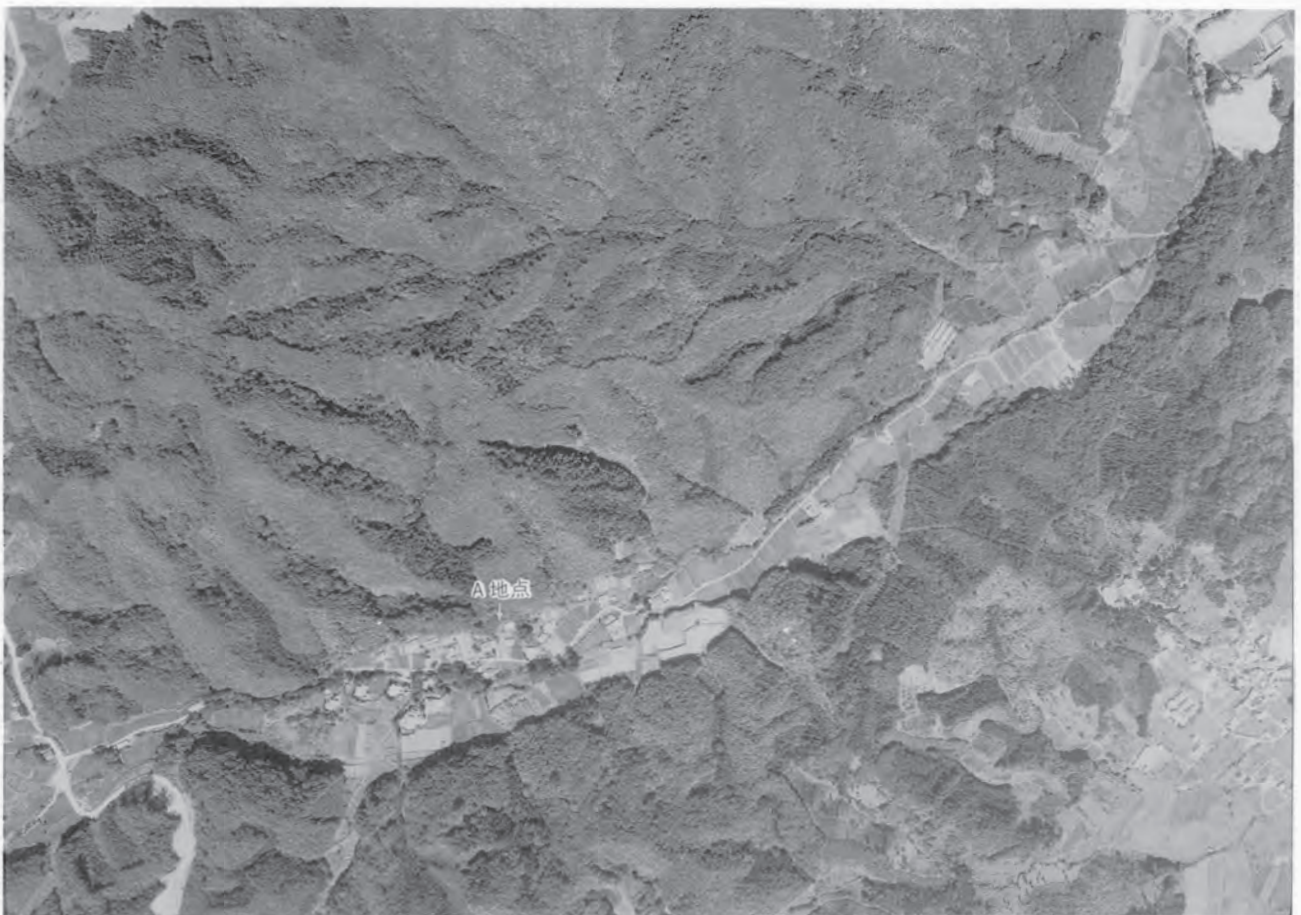
Fig. 6

根井沢地区遺跡分布図



根井沢地区 (南西より)

Photo.16



根井沢地区

Photo.17



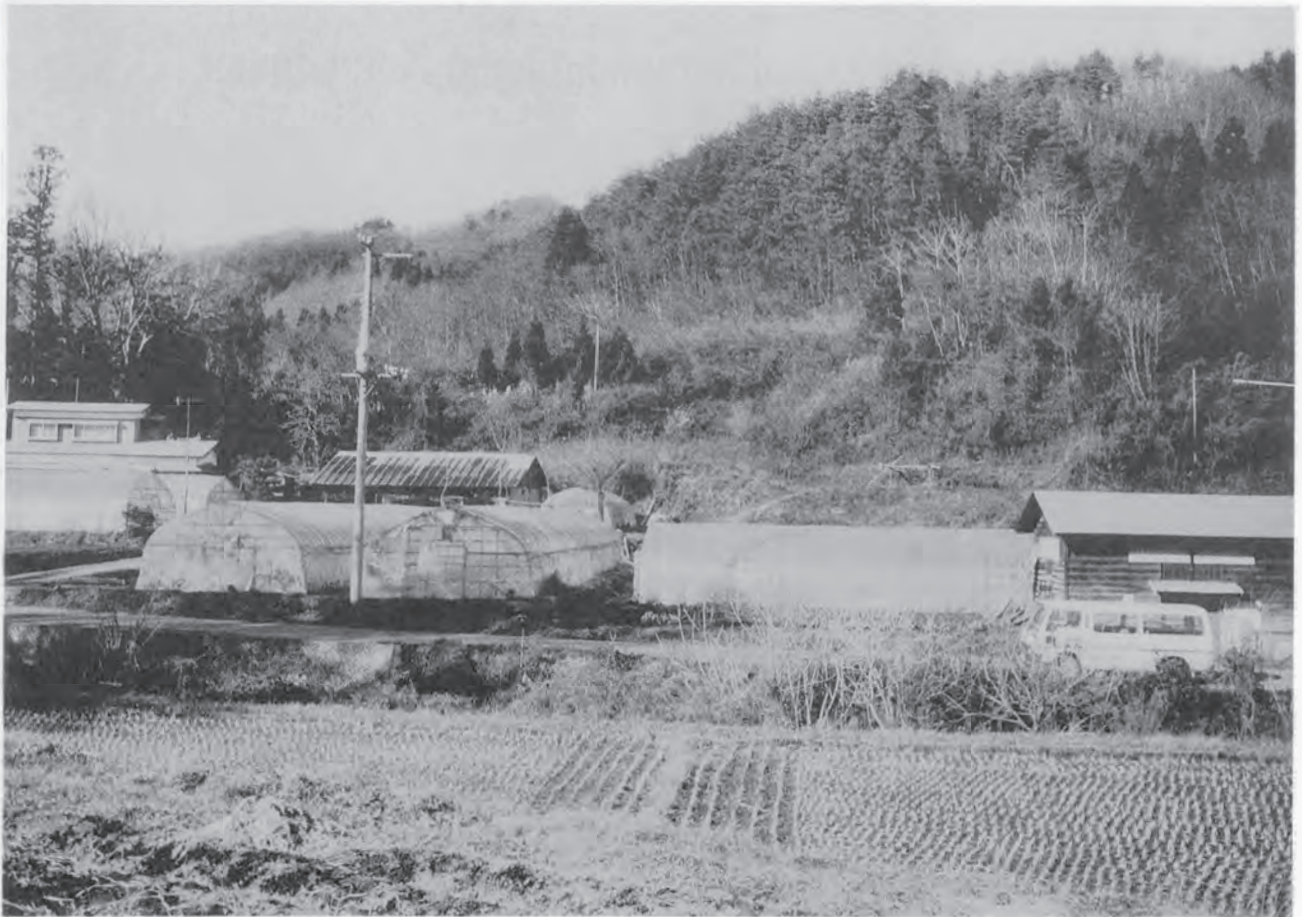
Photo.18

根井沢地区（南東より）



Photo.19

根井沢地区（南西より）



根井沢 I 遺跡(LG53-2152)南より

Photo.20



根井沢 II 遺跡(LG53-2078)南西より

Photo.21



Photo.22

根井沢日影II(LG53-2164)西より



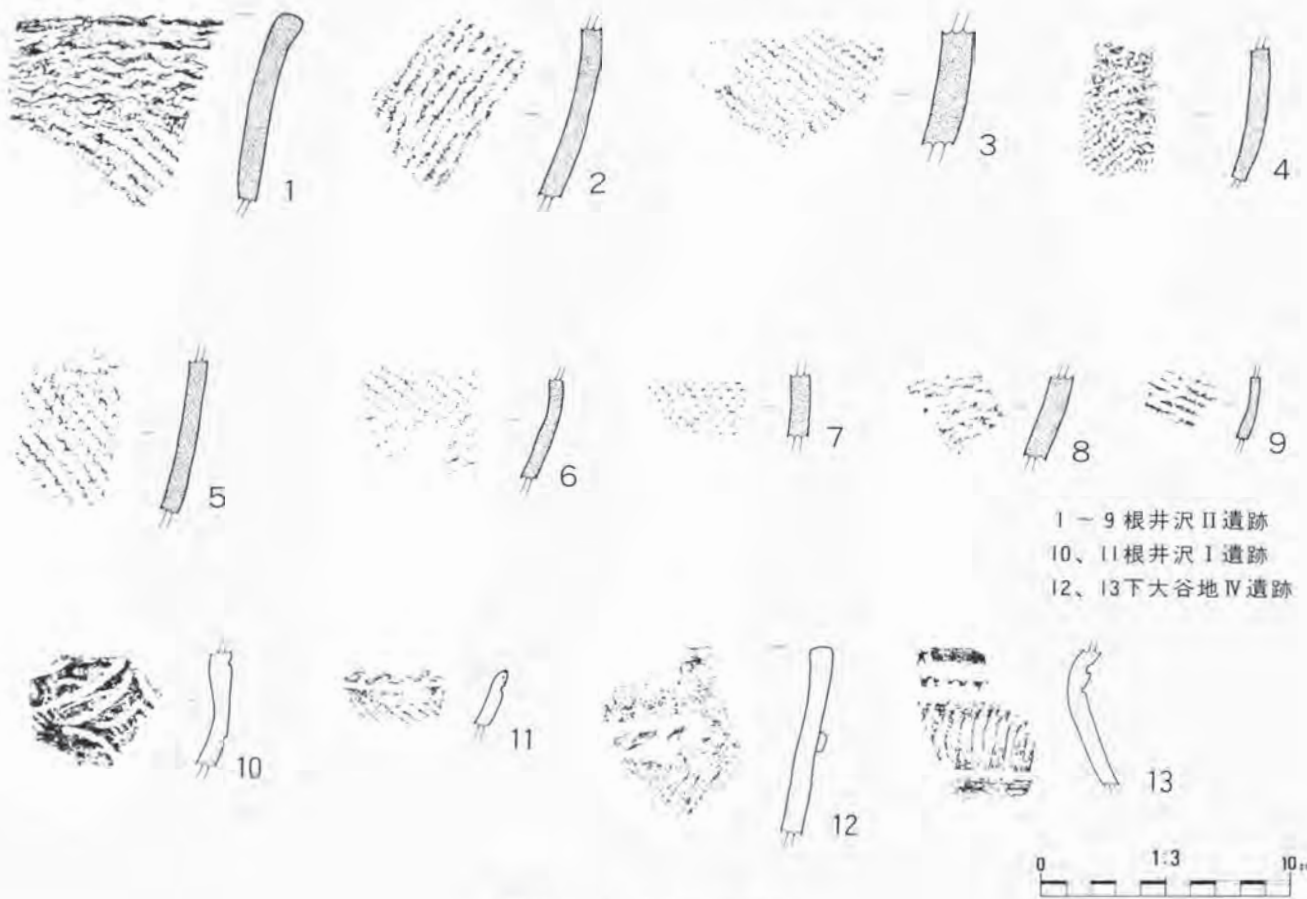
Photo.23

根井沢 I 遺跡 A 地点出土のフィゴ羽口と鉄滓



根井沢・大谷地地区遺物

Photo.24



1 - 9 根井沢 II 遺跡
 10、11 根井沢 I 遺跡
 12、13 下大谷地 IV 遺跡

根井沢・大谷地地区遺物

Fig. 7

4 堀内・小堀内地区

立地 宮古湾の東岸は赤前から閉伊崎に至るほぼ直線状の海岸になっており、重茂半島の山地が急崖となって湾に没している。この海岸線は津軽石断層崖で、正断層で落ち込んだ西側が海面下となり宮古湾が形成されたと考えられている。(註1)

堀内、小堀内地区はこの海岸線の最も南に位置し、堀内では小起伏山地の谷間にみられる小平野に、また小堀内では赤前地区に続く山麓緩斜面に遺跡が確認されている。

堀内 堀内地区では4ヶ所の遺跡が知られているが、いずれも現在集落が見られ面よりも多少高い山裾に所在しており、縄文時代の遺物が見られる。

小堀内 小堀内I遺跡は小河川をとり込む緩斜面にあり、北及び東は山地により限られている。遺跡の一部で宅地造成が行われた際にかかなりの量の遺物が出土したことがあり、これが地元の方により保管されていたので借用して資料化した。(註2) (Fig.9~12,Photo.29~33)

遺物は縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期の各期・弥生時代及び奈良時代のものが見られ、極めて広汎な時期性を示している。遺物量や出土したときの状況から遺構の存在は確実に考えられ、縄文時代から奈良時代までの各時期に共通して生活が営まれた立地を持つ遺跡として重要である。

小堀内II遺跡は、西向きの山麓緩斜面上にあり縄文時代の遺物が見られる。小堀内III遺跡は丘陵尾根上に縄文時代の遺物が見られ、周辺地区の同一立地にも遺跡の存在が推定される。

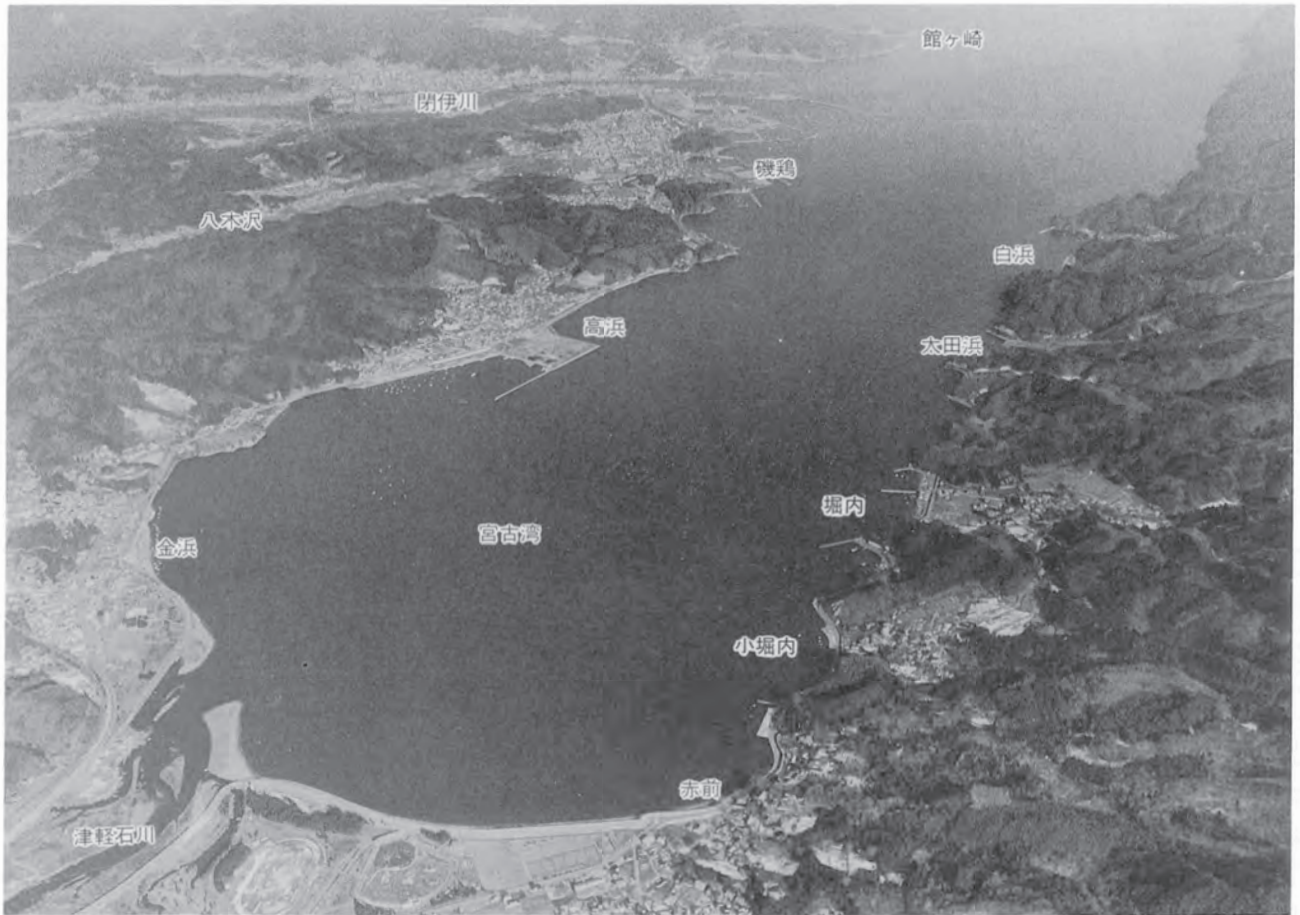
註1 1979 『宮古の自然』1宮古市の地質 37P

註2 小堀内八藏氏からの資料の借用を受けた。記して謝意を表す。



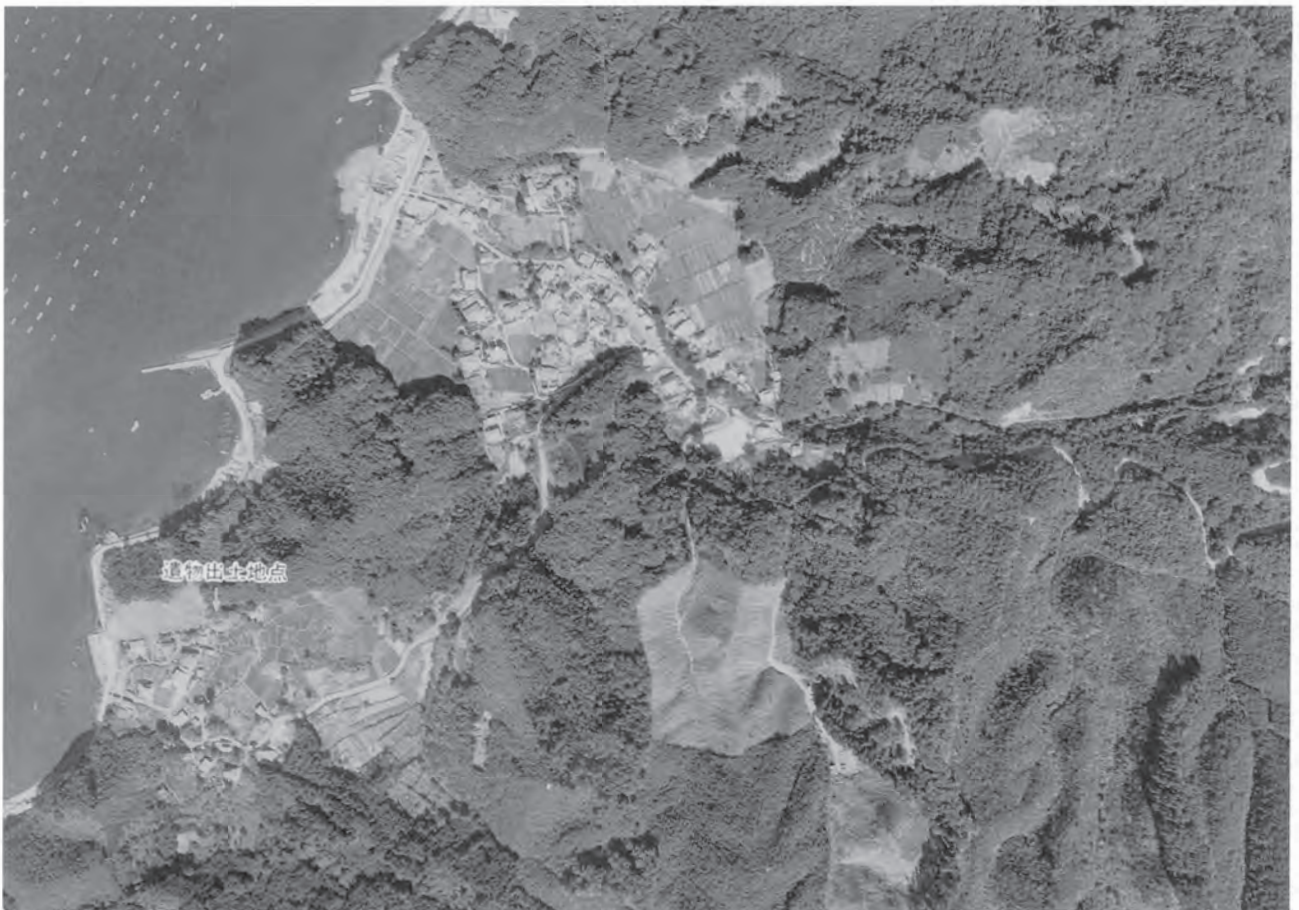
Fig.8

堀内・小堀内地区遺跡分布図



堀内・小堀内地区と宮古湾

Photo.25



堀内・小堀内地区

Photo.26



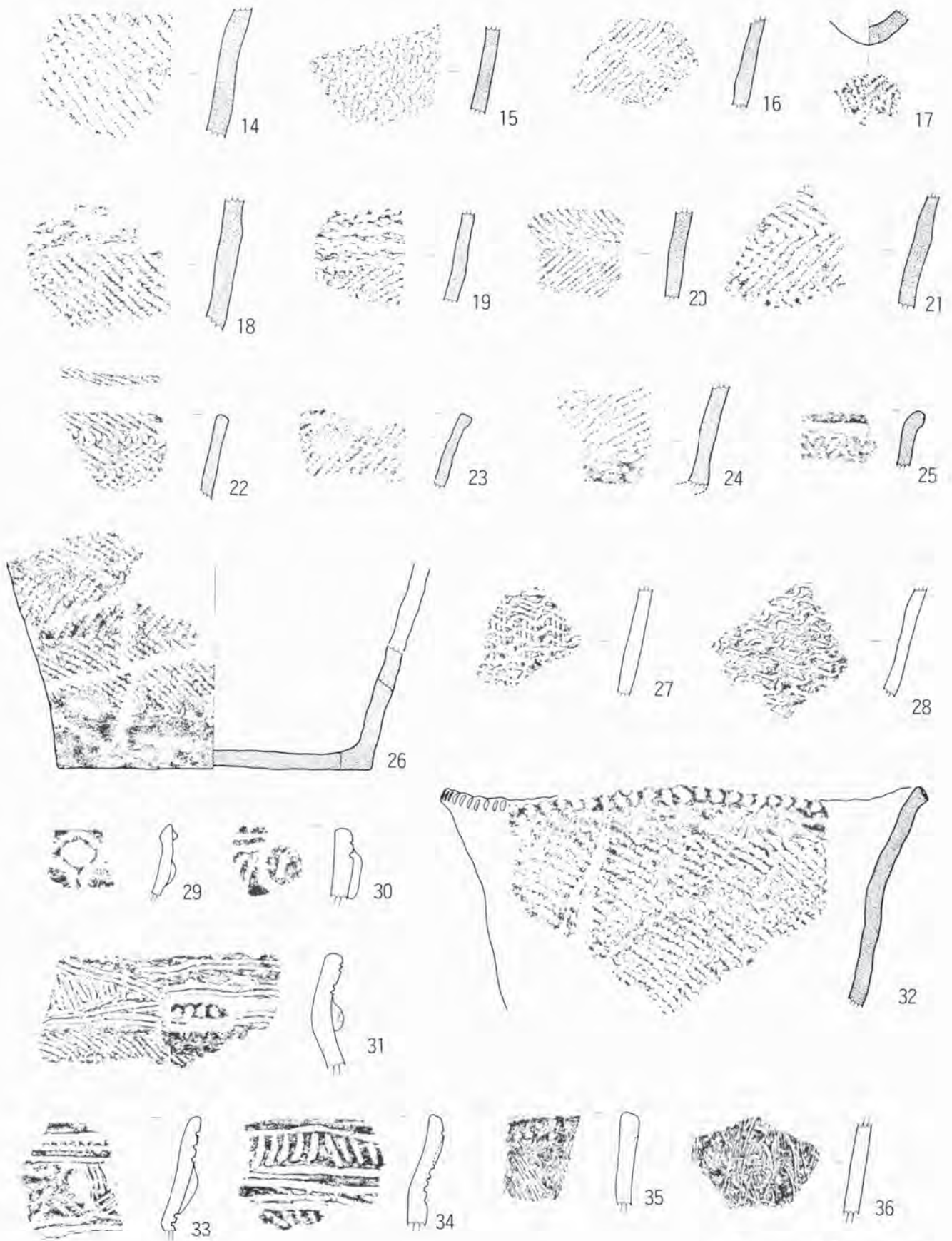
Photo.27

堀内・小堀内地区（西より）



Photo.28

小堀内 I 遺跡(LG54-0013)南東より



小堀内 I 遺跡出土遺物

Fig. 9

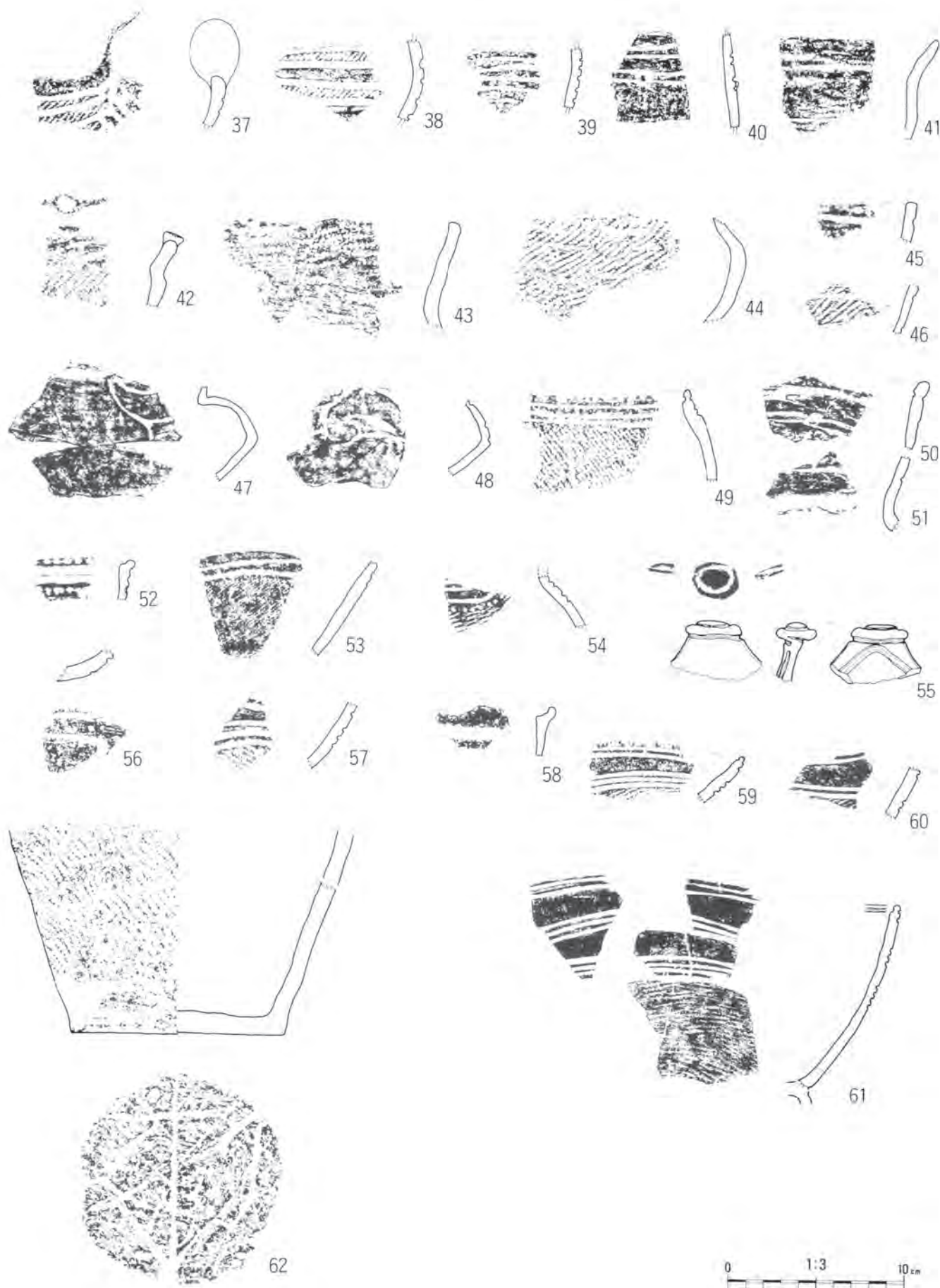
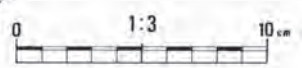
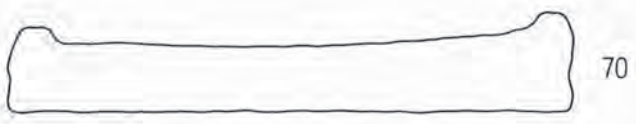
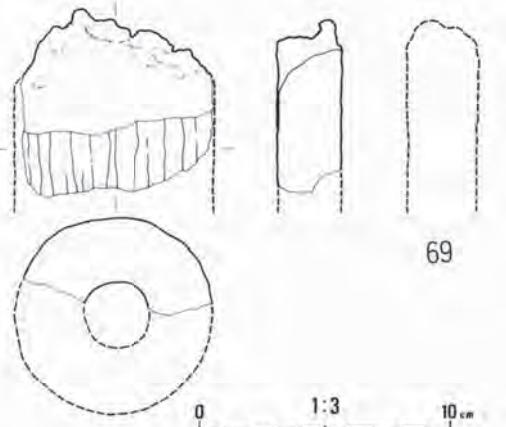
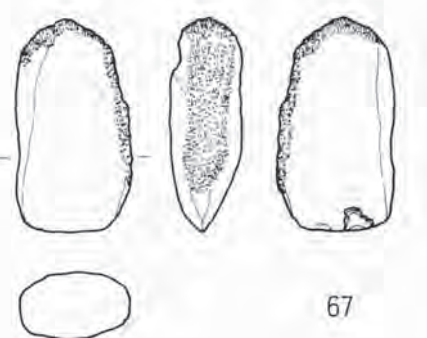
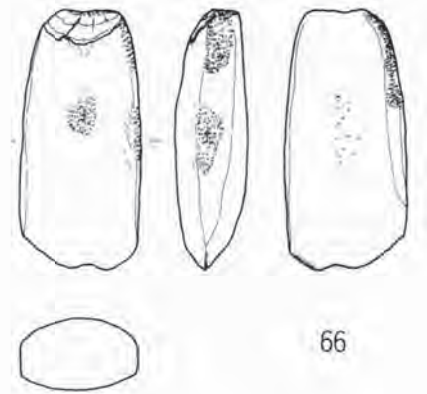
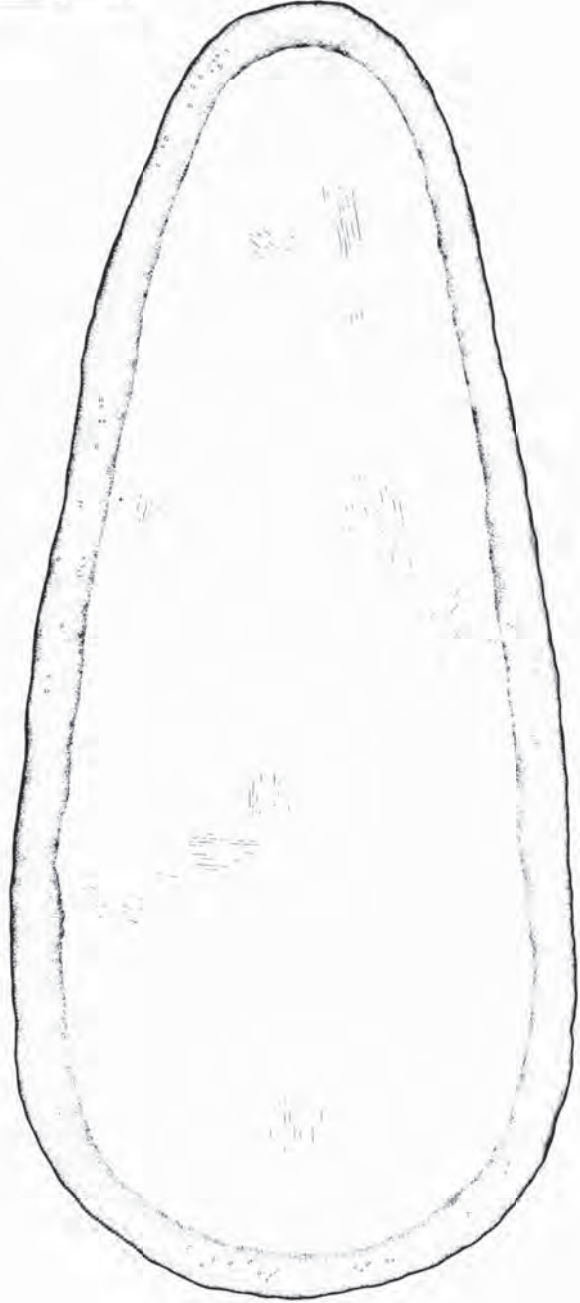
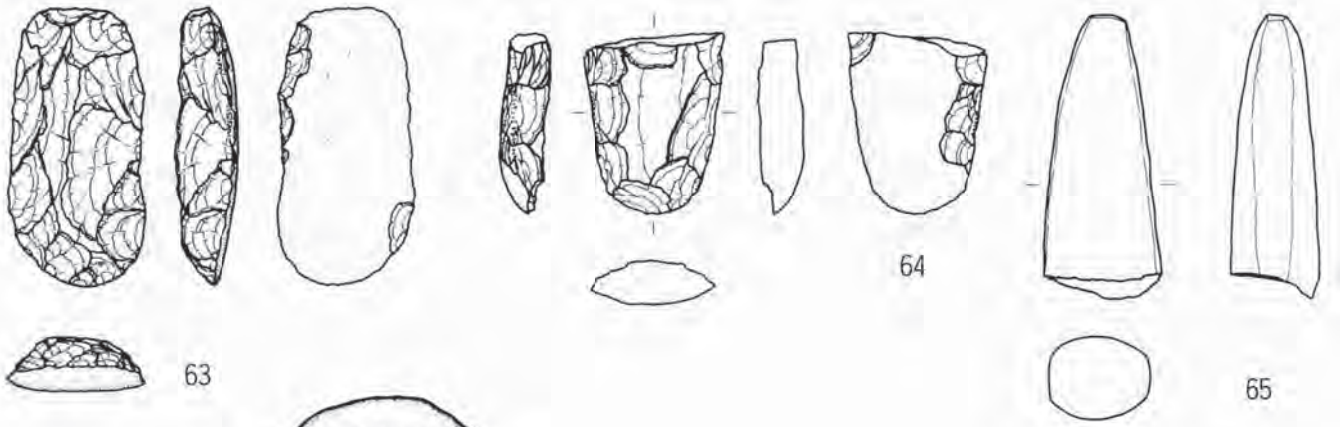


Fig.10

小堀内 I 遺跡出土遺物



小堀内 I 遺跡出土遺物

Fig.11



Photo.29

小堀内 I 遺跡出土遺物



Photo.30

小堀内 I 遺跡出土遺物



小堀内 I 遺跡出土遺物

Photo.31



小堀内 I 遺跡出土遺物

Photo.32

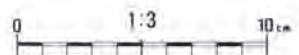
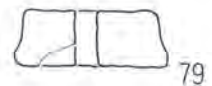
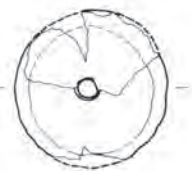
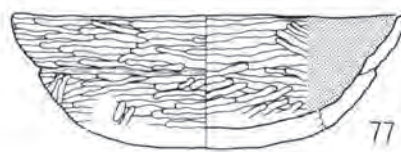
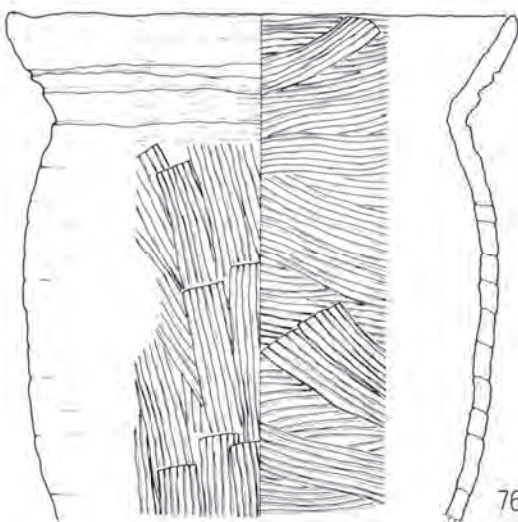
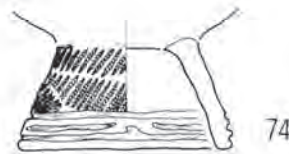
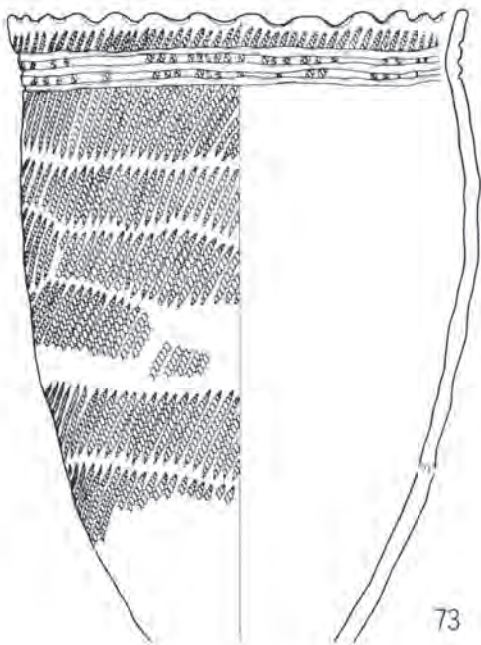
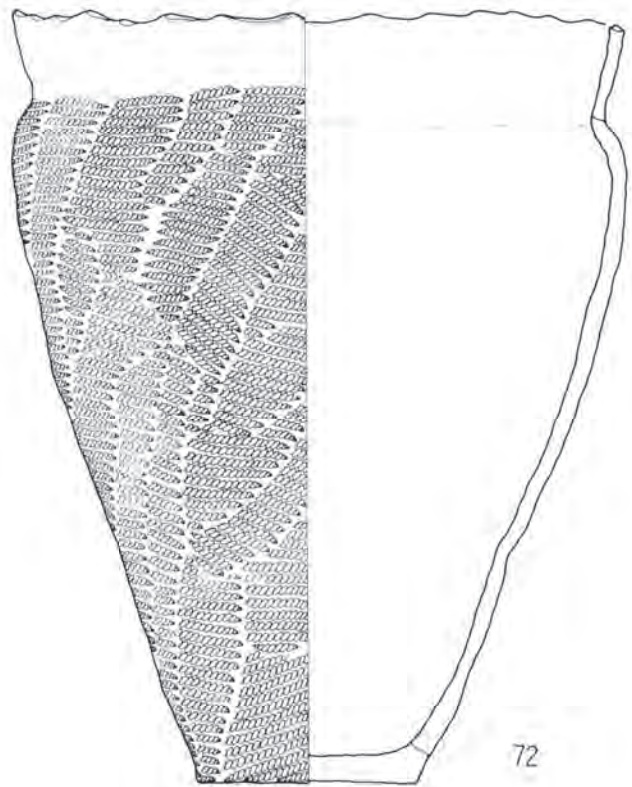


Fig.12

小堀内 I 遺跡出土遺物



小堀内 I 遺跡出土遺物

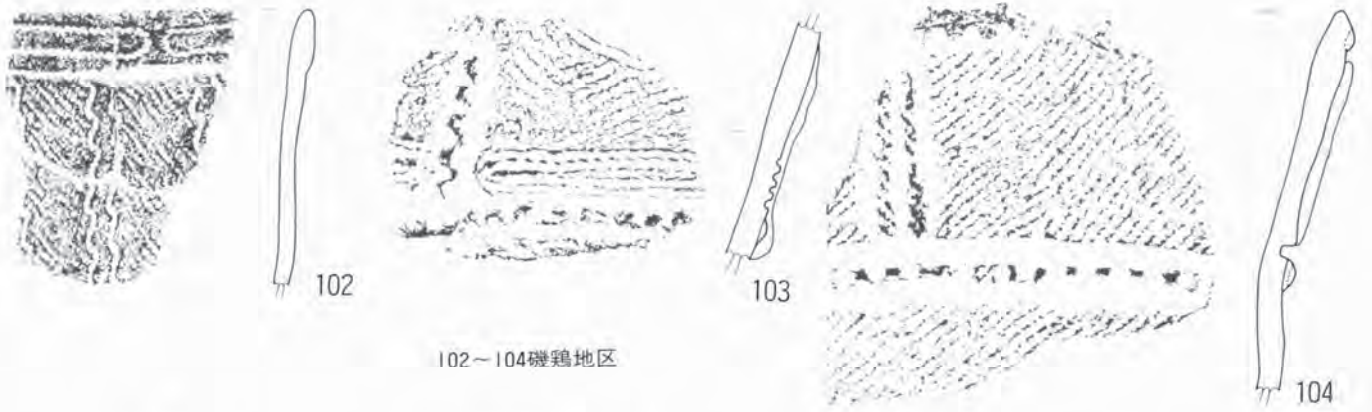
Photo.33

III 資料編

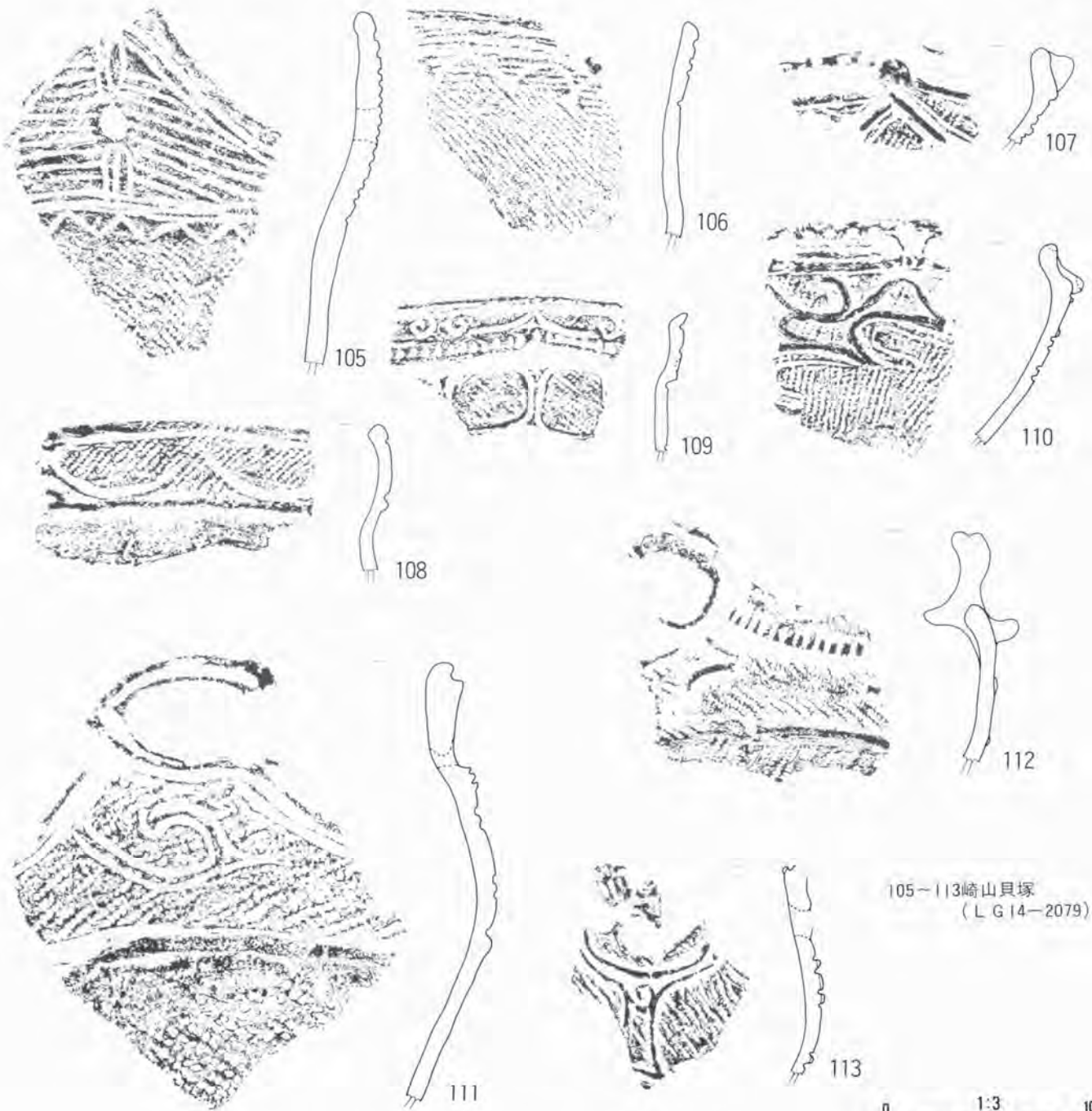


Fig.13

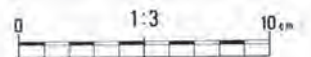
資料 I



102~104磯鷄地区



105~113崎山貝塚
(L G 14-2079)



資料 2

Fig.14

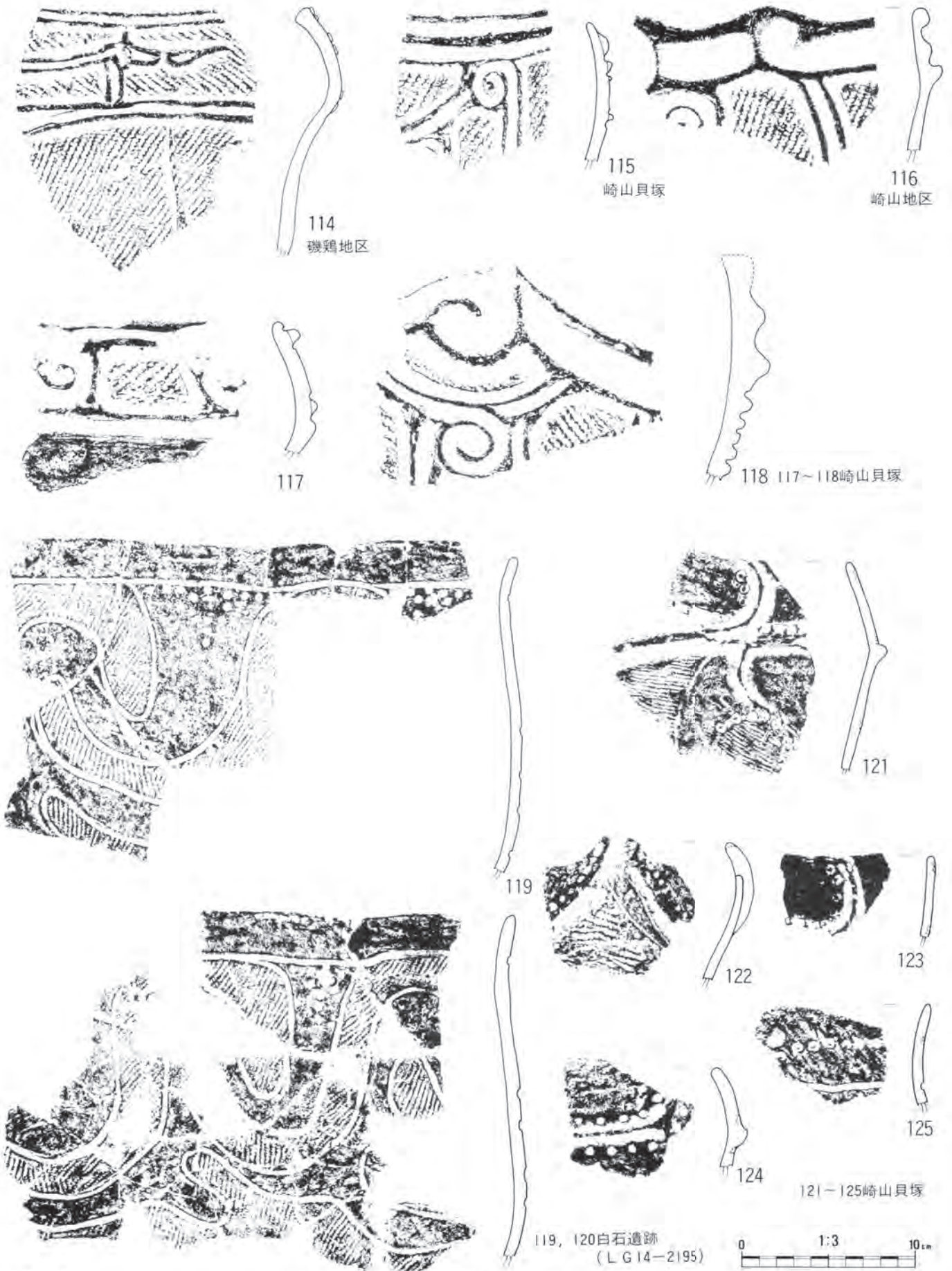
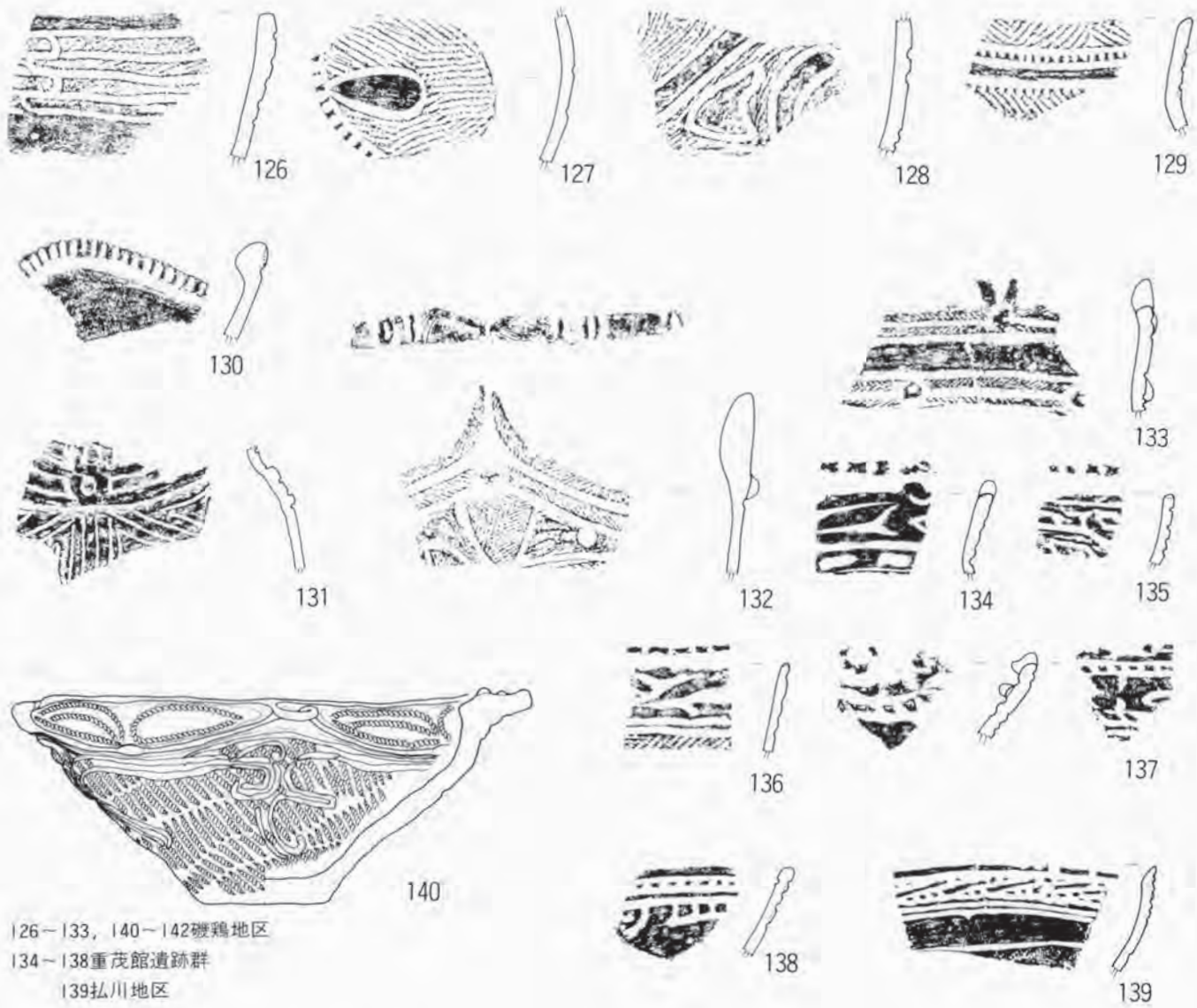
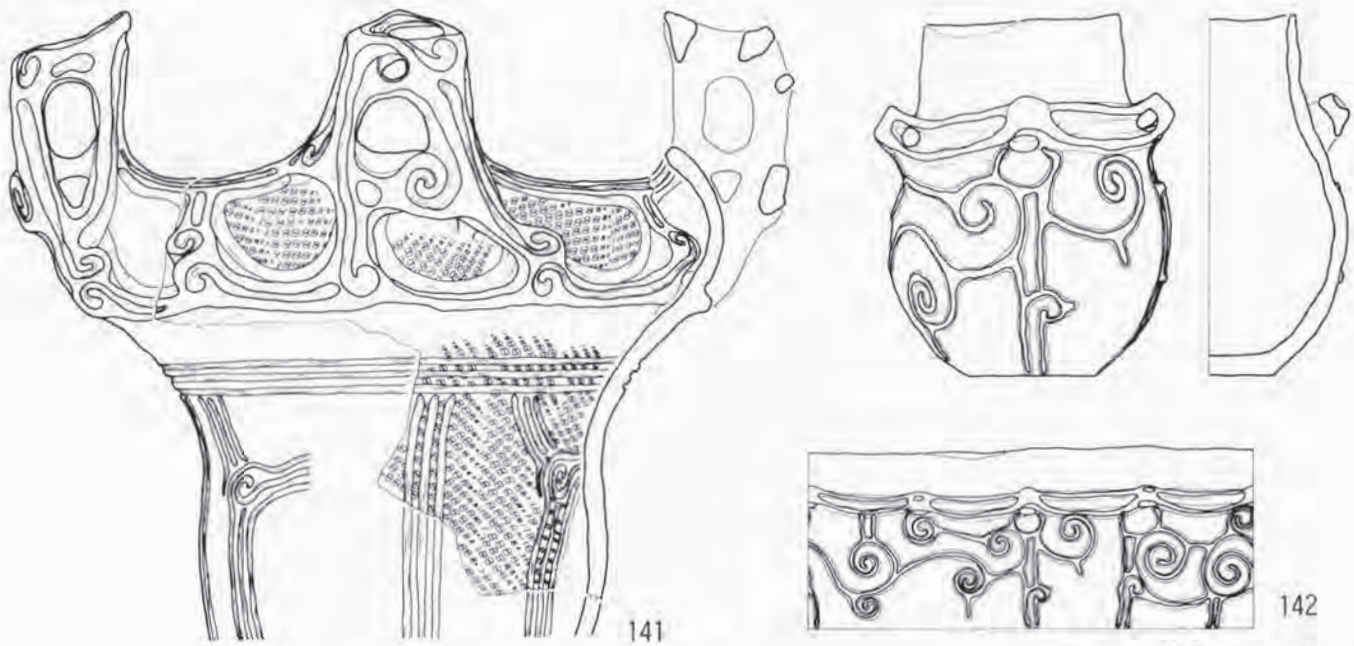


Fig.15

資料 3

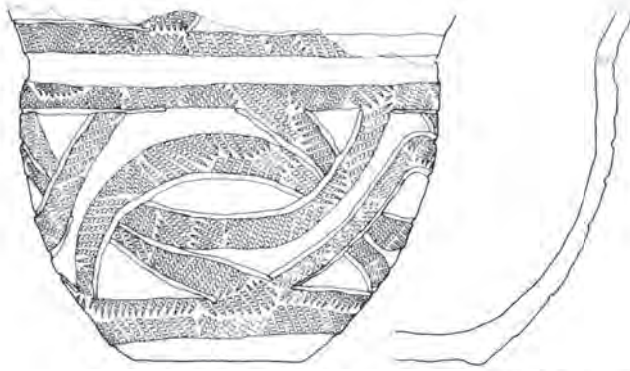


126-133, 140-142 磯鷄地区
 134-138 重茂館遺跡群
 139 弘川地区



資料 4

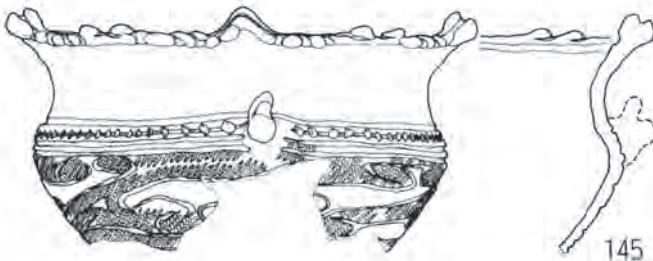
Fig.16



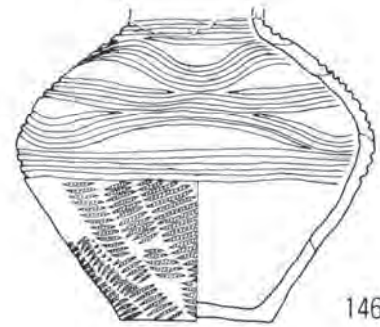
143 津輕石沼里遺跡



144
小沢遺跡

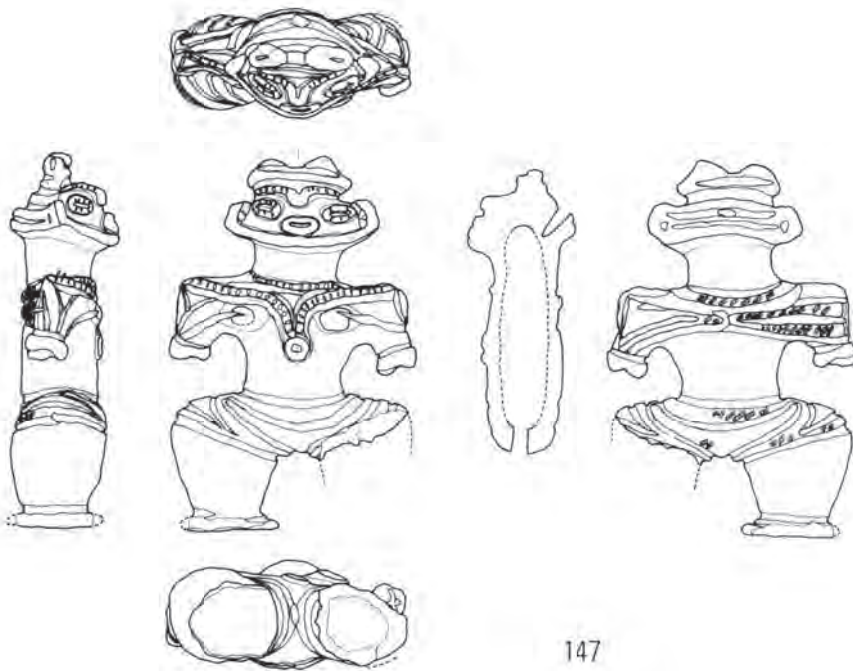


145

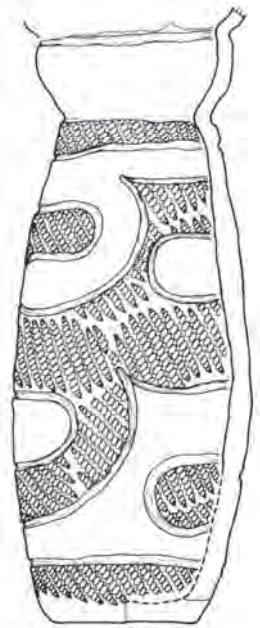


146

145-147 近内地区



147



148
磯鷄地区

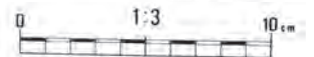


Fig.17

資料 5



資料 6

Photo.34



資料 7

Photo.35

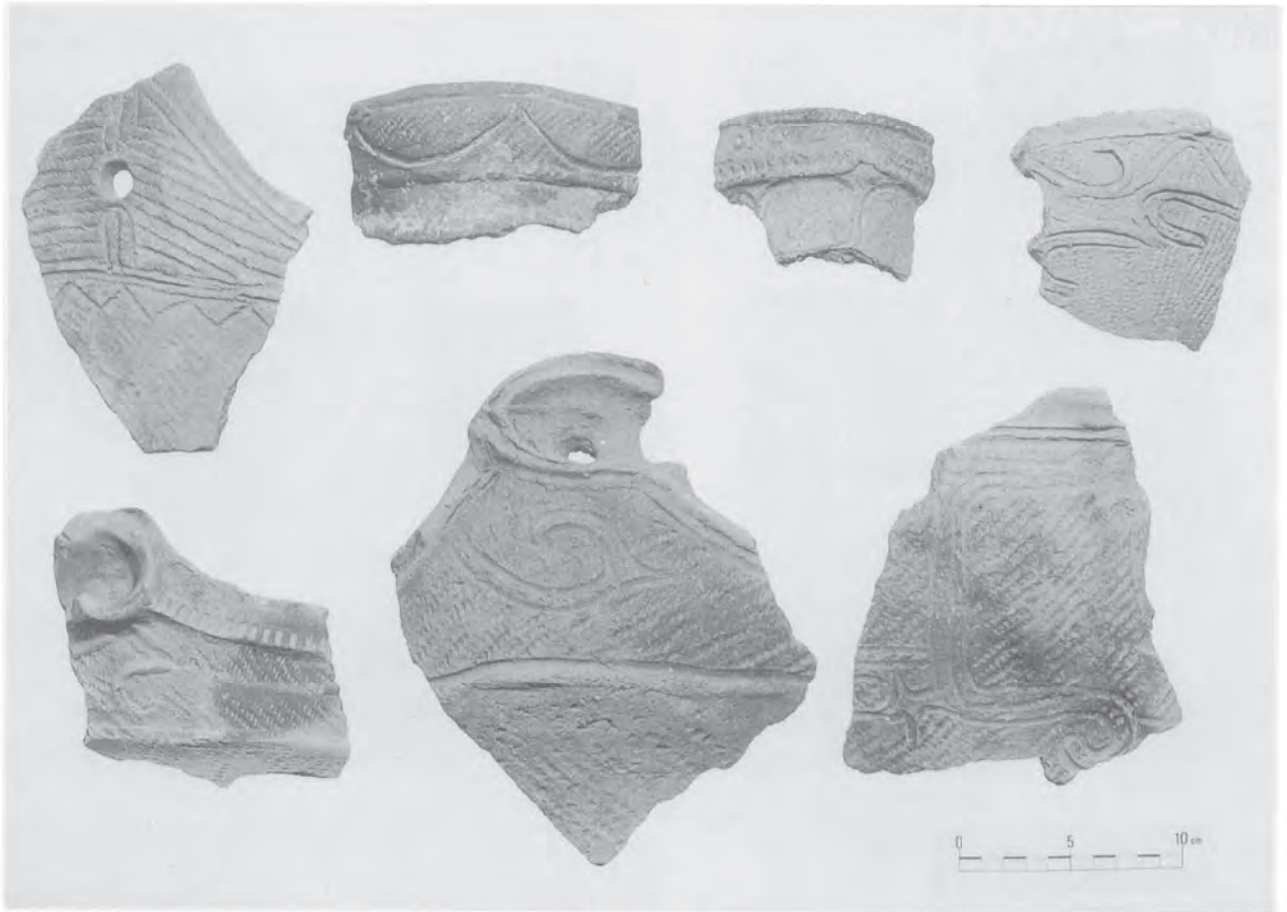


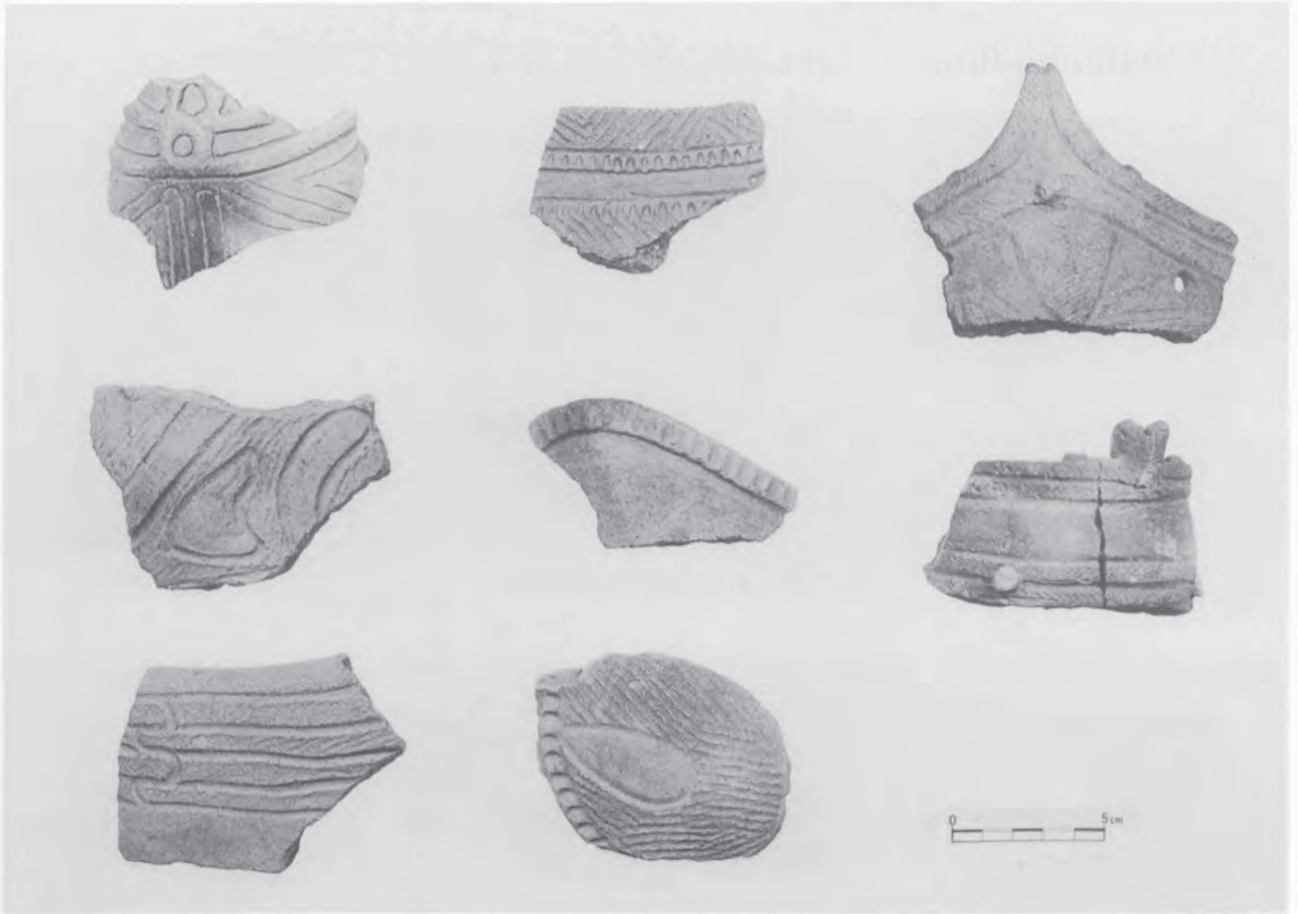
Photo.36

資料 8



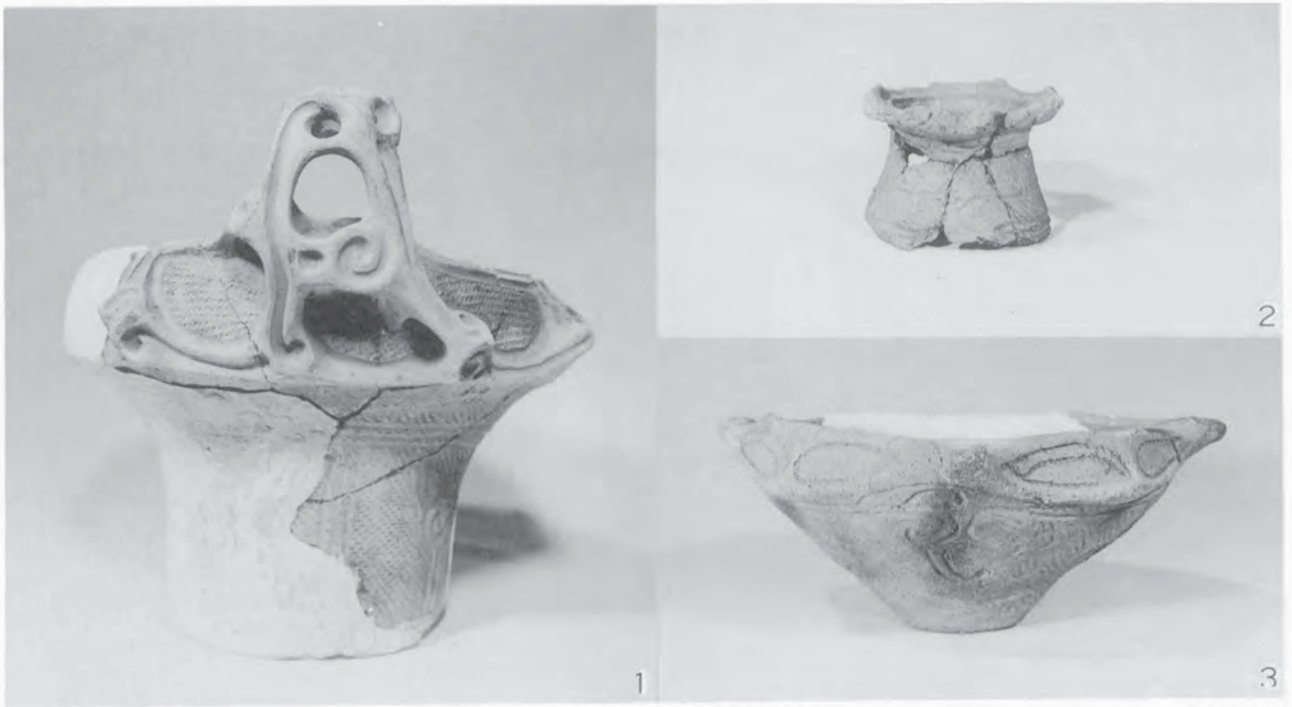
Photo.37

資料 9



資料 10

Photo.38



資料 11 (磯鷄地区)

Photo.39



磯鷄地区



津軽石沼里遺跡



磯鷄地区



小沢遺跡



近内地区



近内地区



近内地区

宮古市埋蔵文化財調査報告書 8

宮古市遺跡分布調査報告書 4

Distribution of Archaeological
Research Sites in Miyako

1986. 3

発行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号

印刷 株式会社 文化印刷
岩手県宮古市大通2丁目5の2
